

設置の趣旨等を記載した書類

ア リハビリテーション科学部言語聴覚療法学科設置の趣旨及び必要性

1. 社会的背景

日本における現在、ならびに今世紀における最大の医療問題は超高齢社会に伴う高齢障害者数の増加である。長寿社会では、活動障害を抱えながら生きる高齢者が増加する。長寿は人の幸福の必要条件ではあっても十分条件ではなく、人生の最終ステージを快適に尊厳を持って迎えることができなければ幸福とはいえない。活動障害は、1) 操作、2) 移動、3) 摂食・排泄の運動領域と4) コミュニケーション、5) 社会的認知の認知領域の障害がその中心領域になる。リハビリテーション医学は、医療の中で活動障害を扱うほぼ唯一の治療体系であり、長寿社会に必須のインフラストラクチャーといえる。操作、移動、排泄、社会的認知は、すでに設置されている理学療法学科・作業療法学科が対応しているが、活動障害の摂食、認知領域の一部は言語聴覚療法学科が担当している領域である。医療においては、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士はリハビリテーション部に所属する。包括的なリハビリテーションを学ぶためにも、言語聴覚療法学科をリハビリテーション科学部に設置することが望ましい。介護保険領域では、運動器の機能向上（理学・作業療法領域）と口腔機能向上（言語聴覚療法領域）は、主たる介護予防プログラムである。

2. 教育研究上の目的

北海道医療大学は基本三方針を2011年4月に策定し、実践している。すなわち、①入学者受入れ方針（アドミッション・ポリシー）、②教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）、③学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の3つの方針である。北海道医療大学は、「21世紀の新しい健康科学の構築」を追究し、社会の要請と期待に応えるため、保健と医療と福祉に関する高度の研究に基づいた良質な教育を行い、「新医療人育成の北の拠点」を目指すことを教育研究の基本姿勢としている。その教育を通して、チーム医療をはじめ地域社会や国際社会に貢献できる自立した専門職能人を育成することを目標としている。その目標を実現するために、入学者の受入れ方針として、まず基礎的な学力を有していること、協調性や基礎的コミュニケーション能力を有していること、生命を尊重し、他者を大切に思う心があること、保健・医療・福祉に関心があり、地域社会ならびに人類の幸福に貢献するという目的意識を持っていること、生涯にわたって学習を継続し、自己研鑽への意欲を強く持っていることなどを基準に学生を受け入れている。このような基盤を有する学生に対し、北海道医療大学は、「保健と医療と福祉の連携・統合」を目指す教育理念を基本として、広く社会に貢献できる確かな知識と技術、幅広く深い教養を身につけた人間性豊かな専門職能人を育成する。

言語聴覚療法学科の人材育成像としては、包括的なリハビリテーション医学を理解し、その中でコミュニケーション障害における多職種連携を担える人材を養成する。この目的をより明確にし、かつ確実に実現させるために、言語聴覚療法学科をリハビリテーション科学部に設置することが必要である。

3. 組織として研究対象とする中心的な学問分野

本学科が組織として研究対象とする中心的な分野は「発声発語障害学」、「失語症学」、「高次脳機能障害学」、「摂食・嚥下障害学」、「聴覚障害学」、「音声学」、「音響学」である。

イ 学部、学科等の特色

2005年1月28日に公表された中央教育審議会答申は、「我が国の高等教育の将来像」の第2章の3「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」において、「新時代の高等教育は、学習者の様々な需要に的確に対応するため、大学等がそれぞれの位置付けや期待される役割・機能を十分に踏まえた教育や研究を添加するとともに個々の学校が個性・特色を一層明確にしていかなければならない」としている。特に大学は、どの分野に比重を置いた経営戦略を立てていくのか明確化する必要があるとし、以下の7つの類型を例示している。

①世界的研究・教育拠点、②高度専門職能人養成、③幅広い職業人養成、④総合的教養教育、⑤特定の専門的分野（芸術、体育等）の教育、研究、⑥地域の生涯学習機会の拠点、⑦社会貢献機能（地域貢献、産学官連携、国際交流等）

本学の基本三方針（2011年4月）ならびに、教育研究の基本姿勢（新医療人育成の北の拠点を目指す）から、②高度専門職能人養成、⑥地域の生涯学習機会の拠点、⑦社会貢献機能（地域貢献）を担う。

ウ 学部、学科等の名称及び学位の名称

学部学科名称は、包括的なりハビリテーション医学を理解し、その中でコミュニケーション障害における多職種連携を担える人材を養成することから、『リハビリテーション科学部言語聴覚療法学科』とする。また、専門職能人になるための言語聴覚士国家試験受験資格を取得できる教育課程を学修することから、学位の名称は『学士（言語聴覚療法学）』とする。

なお、学部、学科及び学位の英訳名称は次のとおりである。

学 部	School of Rehabilitation Sciences リハビリテーション科学部
学 科	Department of Communication Disorders 言語聴覚療法学科
学 位	Bachelor of Science in Speech, Language and Hearing Therapy 学士（言語聴覚療法学）

エ 教育課程の編成の考え方及び特色

1. カリキュラム体系の考え方

教育課程の編成にあたっては、専門教育科目については現行の心理科学部言語聴覚療法学科のカリキュラムを踏襲し、全学教育科目については、移行後のリハビリテーション科学部のカリキュラムをベースとすることとした。

言語聴覚士の業務は医学をベースとするため、教育の体系は医学教育と同様である。科目の履修は基礎から専門へ順に積み上げられ、互いに統合されながら専門へと向かう。ここでは順次性が重要となる。卒業時の基本的臨床技能の修得を目標とする。

4年間の学習順序

	1年	2年	3年	4年
全学教育科目	導入科目 教養科目 外国語科目、自然科学科目、健康・運動科学科目 情報科学科目 地域連携 多職種連携 医療倫理		国際社会福祉論 統計学 地域包括ケア演習 多職種連携論	
言語聴覚学基盤教育	人体の科学 構造・機能 解剖生理学	病気の科学 病理学 人間集団の病気 公衆衛生学 人の病気 臨床、内科学、小児科学、 耳鼻咽喉科学、リハビリテ ーション医学、その他		
	人間理解 心理学			
	ことばの理解 言語学			
	声の理解 音声・音響学			
	社会福祉・教育系科目 リハビリテーション概論、関係法規、社会福祉援助技術論 その他			
言語聴覚障害学教育		失語・高次脳機能障害学 言語発達障害学 成人聴覚障害学	失語・高次脳機能障害学 発声・発語障害学 摂食嚥下障害学 小児聴覚障害学、演習	卒業研究 または 言語聴覚ゼミナールⅡ
			臨床実習（基礎実習、総合実習）	
言語聴覚学総合教育	言語聴覚学障害概論	言語聴覚診断学総論 言語聴覚学総論Ⅰ	言語聴覚学総論Ⅱ	言語聴覚学総論Ⅲ～Ⅴ

言語聴覚士養成教育は、大学において臨床教育（実習）ができて始めて教育の責任がとれる形である。このような臨床教育の場（北海道医療大学病院言語聴覚室）を大学にもつことは教育、研究のうえで有用である。

1) 全学教育科目

全学教育科目とは、北海道医療大学の教育目標を達成するために、全学共通の視点で提供される授業科目群である。いわゆる教養教育、一般教育、共通教育などに相当する。全学教育科目は、「導入科目」、「教養科目」、「外国語科目」、「情報科学科目」、「健康・運動科学科目」、「自然科学科目」、「医療基盤科目」から編成される。必修科目11科目、選択科目22科目の合計33科目からなる。

① 導入科目

大学で学ぶ態度・習慣、技術を身につける。

必修科目：基礎ゼミナール（コミュニケーション実践論）、文章指導（日本語の表現）の2科目

② 教養科目

人間力の中心（教養のコア）をつくる科目として重視され、人間力の基礎を築く。生き

ていくための幅広い力をバランスよく身につけるために、人間と思想、人間と文化、人間と社会、自然と科学の4つの科目群からなる。

必修科目：自然と科学（生命科学）の1科目

選択科目：人間と思想（心理学）、人間と文化（文化人類学）、人間と社会（医療の経済学）等の10科目

③ 外国語科目

外国語の学習を通して、国際性と異文化理解能力を身につける。

必修科目：英語Ⅰ（オーラル・イングリッシュA）（オーラル・イングリッシュB）の2科目

選択科目：英語Ⅱ（英語A）（英語B）、中国語、韓国語、フランス語、ドイツ語の6科目

④ 情報科学科目

現代の生活を支えるコンピュータ技能とその活用方法を実習も重視しながら学ぶ。

必修科目：情報処理演習（情報処理演習）、統計学（基礎統計学）の2科目

⑤ 健康・運動科学科目

健康や運動に関する基礎的知識を習得するとともに、健康を日常的に支える能力を養う。

必修科目：健康・運動科学演習（運動科学演習）の1科目

⑥ 自然科学科目

専門の土台となる物理学・生物学・化学を学ぶ。また、不得意科目を克服するために、補正科目としての「基礎数理」も用意する。

選択科目：自然科学入門（基礎数理）（物理学）（化学）（生物学）の4科目

⑦ 医療基盤科目

医療全体に共通する基本的内容の科目である。医療の現場で求められる共通の態度・習慣や、個々人に合わせた医療の基本姿勢を身につける。また、地域とともにある医療の基礎や、チーム医療を実践するうえで必要な他の専門職との連携・統合の基礎を学ぶ。その学習過程で多職種を理解し、早期に共通言語を獲得できるように配慮する。

必修科目：個体差健康科学（個体差健康科学・多職種連携入門）、医療倫理（医療倫理）、多職種連携（多職種連携論）の3科目

選択科目：地域連携（メディカル・カフェをつくるⅠ）（地域包括ケア演習）、の2科目

2) 専門教育科目

専門教育科目はカリキュラム表では、「言語聴覚学総合教育」、「言語聴覚学基盤教育」と「言語聴覚障害学教育」からなる。

(1) 言語聴覚学総合教育

言語聴覚学総合教育は、言語聴覚士学校養成所指定規則に規定される教育内容のうち、専門分野の「言語聴覚障害学総論」と「選択必修分野」に相当し、「言語聴覚障害学概論」「言語聴覚診断学総論」、「言語聴覚学総論Ⅰ～Ⅴ」で構成する。言語聴覚障害（学）の入門、基礎、臨床の早期体験、総合実習への導入を容易にする講義・実習である。必修科目6科目、選択科目1科目の合計7科目からなる。

① 言語聴覚障害学概論

言語聴覚障害の入門で、音声言語病理学・聴能学の基本的事項が提供される。2年次の言語聴覚学総論・診断学、3年次の専門各論・演習の導入科目である。

② 言語聴覚診断学総論

言語聴覚士が扱う5つの障害分野における、評価・診断に焦点を当てて講義を行う。

- ③ 言語聴覚学総論Ⅰ
言語聴覚療法の臨床を早期体験する講義および実習である。
- ④ 言語聴覚学総論Ⅱ
総合実習への導入を容易にするために行われる講義および実習である。評価は客観的臨床能力試験（OSCE）を実施する。
- ⑤ 言語聴覚学総論Ⅲ
総合実習への導入を容易にするために行われる講義および実習である。評価は客観的臨床能力試験（OSCE）を実施する。言語聴覚学総論Ⅱとは、実習の分野が異なる。
- ⑥ 言語聴覚学総論Ⅳ
学士課程を修了するためにこれまでの講義で学んだ知識を再確認し、確実なものとする。
- ⑦ 言語聴覚学総論Ⅴ
言語聴覚学に関係する領域のより高度な専門知識を学ぶ。各領域の最先端の研究成果を紹介する。

(2) 言語聴覚学基盤教育

言語聴覚学基盤教育は、言語聴覚士学校養成所指定規則に規定される教育内容のうち、専門基礎分野の区分に相当し、「基礎医学」「臨床医学」「臨床歯科医学」「音声・言語・聴覚医学」「心理学」「言語学」「音声学」「音響学」「言語発達学」「社会福祉・教育」「選択必修分野」にそれぞれ区分し構成される。必修科目は26科目、選択科目6科目であるので、合計は32科目となる。

- ① 基礎医学
人間の構造と機能、疾病・障害の病理・病態を学ぶ。
必修科目：解剖生理学、医学総論、病理学の3科目である。
- ② 臨床医学
医学の基本と言語聴覚障害の対象となる各種疾患の病態、診断、治療について学ぶ。
必修科目：内科学、小児科学、耳鼻咽喉科学、形成外科学、精神医学、神経学、リハビリテーション医学の7科目
- ③ 臨床歯科学
言語聴覚障害と密接に関連する顎口腔機能に関する基礎知識を学ぶ。
必修科目：歯科学総論、口腔外科学の2科目
- ④ 音声・言語・聴覚医学
音声・言語・聴覚医学に関する構造・機能を解剖学・生理学の観点から学ぶ。
必修科目：音声言語聴覚医学の1科目
- ⑤ 心理学
心の科学を学ぶ。
必修科目：認知心理学、学習心理学、発達心理学、生理心理学、臨床心理学、心理測定法の5科目
- ⑥ 言語学
ことばを構成する様々な要素を体系的に学ぶ。
必修科目：言語学の1科目
- ⑦ 音声学
音声生成の仕組み、特徴、記述の方法を学ぶ。
必修科目：音声学の1科目

- ⑧ 音響学
音の物理的性質、聴覚の仕組み、音声の音響的特長を学ぶ。
必修科目：音響学の1科目
- ⑨ 言語発達学
言語という「伝達手段」の発達を学ぶ。
必修科目：言語発達学の1科目
- ⑩ 社会福祉・教育
リハビリテーションの目的、方法、および基盤となる理念を学ぶ。言語聴覚士が関係する法規、社会保障制度を学ぶ。
必修科目：リハビリテーション概論、関係法規、社会保障制度論の3科目
- ⑪ 選択必修分野
解剖生理学の導入科目、言語学・心理学・社会福祉に関連した科目から構成される。
必修科目：基礎人間科学の1科目
選択科目：公衆衛生学、遺伝学、日本語学、神経言語学、生理心理学、社会福祉援助技術論の6科目

(3) 言語聴覚障害学教育

言語聴覚障害学教育は、言語聴覚士学校養成所指定規則に規定される教育内容のうち、専門分野の区分に相当し、「失語・高次脳機能障害学」「言語発達障害学」「発声・発語・嚥下障害学」「聴覚障害学」「臨床実習」にそれぞれ区分し構成される。必修科目は21科目、選択科目3科目であるので、合計は24科目となる。

- ① 失語・高次脳機能障害学
失語症・高次脳機能障害の基礎知識、出現メカニズムを学ぶとともに、検査法・評価法・治療技術を学ぶ。
必修科目：失語症学Ⅰ、失語症学Ⅱ、高次脳機能障害学、失語症学演習Ⅰ、失語症学演習Ⅱ、高次脳機能障害学演習の6科目である。
- ② 言語発達障害学
言語発達に遅れを生じる障害について基本的な項目、言語発達の阻害要因となる疾患についての知見を深めるとともに、検査法・訓練法について学ぶ。
必修科目：言語発達障害学、言語発達障害学特論、言語発達障害学演習の3科目
- ③ 発声・発語・嚥下障害学
成人・小児にみられる発声発語障害の症状・評価・診断方法・治療法を学ぶ。嚥下障害のメカニズム、評価、訓練法を学ぶ。
必修科目：成人発声発語障害学、小児発声発語障害学、摂食嚥下障害学、成人発声発語障害学演習、小児発声発語障害学演習、摂食嚥下障害学演習の6科目
- ④ 聴覚障害学
小児および成人の聴覚障害に対する言語聴覚療法を行うために必要な理論的基礎を学ぶとともに、基本的検査、評価法および聴覚補償法を習得する。
必修科目：成人聴覚障害学、小児聴覚障害学、聴覚障害学演習の3科目
- ⑤ 臨床実習
基礎および専門科目の知識・技術を統合し、各種障害に対する言語聴覚療法を実習し、言語聴覚療法全般および医療人としての態度・行動について学ぶ。
必修科目：基礎実習、総合実習の2科目
- ⑥ 選択必修分野

言語聴覚障害学領域のいずれかの領域において、担当教員の指導の下で文献講読を行い、基礎知識の確認とともに研究法について学ぶ。選択科目では、さらに高度な英語論文講読・研究法の講義を行うとともに、研究を体験する。

必修科目：言語聴覚ゼミナールⅠの1科目

選択科目：英語論文講読・研究法、言語聴覚ゼミナールⅡ、卒業研究の3科目（言語聴覚ゼミナールⅡ、卒業研究の2科目のうち1科目必修）

オ 教員組織の編成の考え方及び特色

1. 教員組織の編成の考え方

本学部の教員組織は、言語聴覚士という専門職能人の養成を教育目的としていることから、その専門教育課程に対応できるよう言語聴覚士の資格を取得した専任教員と音声言語聴覚領域に関連する教員で主に編成する。言語聴覚士である専任教員は、言語聴覚士学校養成所指定規則ならびに運用基準である言語聴覚士養成所指導要領に基づき、十分な実務実績を備えた教員とする。また、それぞれの専門領域を教授できるよう教員を適切に配置する。

2. 各学科における専任教員配置と特色

言語聴覚療法学科では、全学教育科目を担当する教員、大学病院言語治療室担当教員（助手）を含め21名の専任教員を配置している。配置する21名のうち10名が言語聴覚士資格を持ち、いずれも言語聴覚療法に関する実務経験を十分に備えている。言語聴覚士資格を有しない教員の中で、言語聴覚関連領域の診療している教員は4名（教授3名、「歯科医：嚥下障害」、「耳鼻咽喉科医：発声発語、聴覚、嚥下障害」、「神経精神科医：高次脳機能」、准教授1名、「臨床発達心理師：発達障害」）であり、基礎実習を含め、言語聴覚障害学教育を言語聴覚士とともに担当している。職位の内訳は、教授7名、准教授5名、講師3名、助教5名、助手1名（大学病院言語治療室担当）である。年齢構成は、平成27年度の4月現在で20歳代1名（助手）、30歳代2名、40歳代7名、50歳代6名、60歳代5名である。平均年齢は、47歳であり、教員の年齢構成に特に偏りはなくバランスのとれた配置となっており、教育水準の維持向上及び教育研究の活性化に支障がないものとする。現在の学位取得状況は、来年度修士取得予定の1人（助手 大学病院言語治療室担当）を除き、修士8人、博士12人である。専門教育科目の言語聴覚障害学教育の言語聴覚障害学演習（6科目）では、それぞれの演習科目に複数教員を配置する。

「ア」で述べた中心的な学問分野や「エ」で述べた中核的な科目については、ほとんどが本学科の専任教授または准教授（それぞれ一名ずつ修士、その他は全て博士）が担当する。本学科専任教員以外が担当するものについても内科学（个体差医療科学センター教授）、口腔外科学（歯学部教授）、公衆衛生学（看護福祉学部教授）、臨床心理学等心理関連科目（心理科学部臨床心理学科教員）等、本学他学部、学科、研究所の専任教員が担当する。

2015年度より、当別キャンパス並びに札幌あいの里キャンパスの2キャンパスで講義を行うが、完成年次までの両キャンパスでの開講モデルは別紙のとおりである。また、教員の負担軽減のため、2015年度より心理科学部言語聴覚療法学科の編入学生募集を停止する。

（資料1）完成年次までの開講モデル

3. 研究体制

専任教員の主な研究領域は、解剖学、生理学、遺伝学等の基礎領域から、各種障害に対する病態学、解析学、治療学などの臨床実践領域まで多岐にわたる。当該学科では、「言語聴覚

病態生理学領域」、「高次機能障害学領域」、「言語聴覚障害学領域」の3つの研究領域に大別し、大学院教育もこれに準じている。さらに、学際的色彩の強いリハビリテーション科学という研究分野の発展を推進させるために、関連諸科学分野である医学、歯学、心理学、看護学などを専門とする既設学部の教員と有機的に連携している。大学の附属研究施設である個体差健康科学研究所とは遺伝子機能解析部門で共同研究を行っている。

なお、定年年齢は定年規程により定められており、専任教員の場合は65歳となっているが、学部等の増設の場合は当該学部等の完成年次末を定年年齢に読み替えることとされている。

(資料2) 定年規程

カ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

1. 教育方法

教育課程の編成の考え方及び特色で示した下記の考え方で学習は進行する。主な科目の配当年次を下記に示す。

<言語聴覚士教育カリキュラムマップ>

	1年	2年	3年	4年
全学教育科目	導入科目 教養科目 外国語科目、自然科学科目、健康・運動科学科目 情報科学科目 地域連携 多職種連携 医療倫理		国際社会福祉論 統計学 地域包括ケア演習 多職種連携論	
言語聴覚学基盤教育	人体の科学 構造・機能 解剖生理学	病気の科学 病理学 人間集団の病気 公衆衛生学 人の病気 臨床、内科学、小児科学、 耳鼻咽喉科学、リハビリテ ーション医学、その他		
	人間理解 心理学			
	ことばの理解 言語学			
	声の理解 音声・音響学			
	社会福祉・教育系科目 リハビリテーション概論、関係法規、社会福祉援助技術論 その他			
言語聴覚障害学教育		失語・高次脳機能障害学 言語発達障害学 成人聴覚障害学	失語・高次脳機能障害学 発声・発語障害学 摂食嚥下障害学 小児聴覚障害学、演習	卒業研究 または 言語聴覚ゼミナールⅡ
	臨床実習 （基礎実習、総合実習）			
言語聴覚学総合教育	言語聴覚学障害概論	言語聴覚診断学総論 言語聴覚学総論Ⅰ	言語聴覚学総論Ⅱ	言語聴覚学総論Ⅲ～Ⅴ

1) 配当年次

科目の履修は基礎から専門へ順に積み上げられ、互いに統合されながら専門へ向かうのを基本としている。言語聴覚学総合教育科目・言語聴覚基盤教育科目は、初年次から履修することで、早期に専門分野に対する動機付けを図るようにする。1年次には全学教育科目を多く配し、学年進行とともに専門教育科目の比重を高くする（楔形）。また、専門教育科目については、1年次に基礎医学、音声・言語・聴覚医学、心理学（一部）、言語学、音声学、社会福祉・教育（一部）系科目、2年次に臨床医学、臨床歯科医学、音響学、言語発達学、社会福祉・教育（一部）、失語・高次脳機能障害学（一部）、聴覚障害学（一部）系科目、3年次に各種障害に対する言語聴覚障害学科目ならびに演習、そして3年次後期から4年次にかけて基礎実習・総合実習を配置し、体系的に学習できるように編成している。

2) 授業形態に適した学生数の設定

授業は講義、演習、学内及び学外実習によって構成される。学部共通科目として開講する全学教育科目や専門基礎科目の講義については、概ね120～200名規模を想定しているが、全学教育科目の一部（外国語科目や情報科学科目など）や専門教育科目（言語聴覚障害学教育）の演習と基礎実習においては、その授業内容に応じて教育効果を考慮し、5～6名程度からなる班を作り、複数の教員により演習ならびに実習を実施する。また、学外の医療機関等で行う総合実習（臨床実習）については、臨床実習施設側との事前調整のうえ、実習指導者1人に1～2人の学生数を配置する。

3) 状況学習を用いた実践的コミュニケーション能力の育成

医療人としてのふさわしいコミュニケーション能力を育成するために、入学直後の宿泊オリエンテーション、導入教育である基礎ゼミナール（グループ学習と発表）でコミュニケーション関連科目を開講する。医学総論（2年前期）では、グループ学習と学習結果の発表、学生同士によるロールプレイを行う。3、4年次の言語聴覚学総論Ⅱ・Ⅲでは、客観的臨床能力試験（Objective Structured Clinical Examination: OSCE）で模擬患者を用いた手法を用いて実践的狀況をつくり学習する。複数年次にわたり段階的に学習が進められるよう配置している。

4) 学部・学科を超えた多職種連携教育の実施

保健・医療・福祉の現場で様々な専門職種との連携・統合を図るうえで、各専門職種の果たす役割を理解し、互いに連携して職務を遂行できる能力を育成することが必要不可欠である。1年前期には医療基盤科目の個体差健康科学（個体差健康科学・多職種連携入門）、将来の言語聴覚士という職業像がある程度把握できてきた3年前期には、医療基盤科目の多職種連携（多職種連携論）を配置する。本学の医療系総合大学の特色を生かして、他学部の教員の協力を得ながら他の専門職種の役割について教授するほか、学部・学科を超えた授業や地域でのフィールドワークなどを通して、他の専門職種との連携・協働の重要性について理解を深める。地域連携に関しては、3年前期に地域連携（地域包括ケア演習）を選択科目として配置する。

5) e-ラーニングの活用

学生の自学自習支援や教員との双方向性コミュニケーションの促進を図るための教育ツールとして、e-ラーニングの導入をすでに積極的に実施しているが、今後も継続する。英語、摂食嚥下障害学（演習を含む）、成人発声発語障害学演習では、glexa（e-ラーニングシステム）により映像・音声教材、講義前の課題（予習）、講義後の復習（確認のための小テスト）

として実施している。過去の国家試験問題に関しても、e-ラーニングにより参照可能である。

6) 症例（事例）に基づく PBL 形式の演習を設定

対象者の問題を科学的根拠に基づいて解決できる能力を育成するために、言語聴覚障害学教育科目の言語発達障害学演習、小児発声発語演習、摂食嚥下障害学演習、基礎実習では単に知識や技術を伝授するに留まることなく、臨床や日常場面で遭遇する症例（事例）を科学的思考に基づいて解決していく PBL（問題発見・解決型学習）形式の演習を取り入れている。

7) ゼミと文献講読、卒業論文指導

学生は 3 年後期から教員が主催する各ゼミナール（言語聴覚ゼミナール I）に配属（3 年後期からの担任）され、1 年半かけて指導教員のもと、少人数で各専門分野や研究法の学習、卒業論文の作成にあたる。これにより、言語聴覚療法学の発展に寄与できる基本的能力を涵養する。

8) 学習支援室の設置とオフィスアワー制度の導入

学習支援室を教員研究室に隣接して設置し、普段から学生が授業に関することや学生生活全般に関する質問や相談を気軽に行える体制をとる。加えて、オフィスアワー制度において、教員が対応可能な時間には、学生からの相談に応じている。

9) 学生相談室の設置

本学では、学生が様々な問題に直面した際に適切なアドバイスをし、問題解決を図る目的で学生相談室を設置している。相談室には臨床心理士資格を有するカウンセラーが週 2 日体制で対応する。

2. 履修指導方法

1) 新入生オリエンテーションの実施

入学時に新入生ガイダンスを実施し、履修方法に関する事項の他、学生生活に必要な事項、総合図書館の利用方法等について説明をする。また、入学直後に 1 泊 2 日の日程で宿泊研修を実施し、早期に学生生活に順応できるように動機付けを図る。

2) 学生担任制度の導入

学生生活全般や修学上の諸問題に対する指導助言を行うために、1～3 年前期には 4 名の学生担任を配置する。3 年後期～卒業までは、言語聴覚ゼミナール I に対応し学生 3～5 名の少人数体制の担任制度をとる。総合実習の巡回も基本的には担任が行う。学生担任は、担当学生の履修科目と受講状況、成績等を常に把握し、個別にきめ細かい指導助言を行い、学習支援室とも連携する。

3) カリキュラムガイダンスの実施

各学年で各学期初めに、教務スタッフを中心に授業日程、履修方法、進級条件等についての指導を行う。

3. 卒業要件

卒業要件は、本学に 4 年以上在学し、所定の授業科目について総計 133.5 単位以上を修得することとする。履修方法として、全学教育科目は、必修科目 16 単位（導入科目 2 単位、教

養科目 2 単位、外国語科目 2 単位、情報科学科目 3 単位、健康・運動科学科目 2 単位、医療基盤科目 5 単位)、選択科目 35 単位(教養科目 20 単位、外国語科目 6 単位、自然科学科目 7 単位、医療基盤科目 2 単位)のうち 11 単位以上(教養科目 6 単位以上、外国語科目 3 単位以上、自然科学科目 2 単位以上)の合計 27 単位以上とする。専門教育科目は、必修科目 105.5 単位(言語聴覚総合教育 12 単位、言語聴覚基盤教育 48 単位、言語聴覚障害学教育 45.5 単位)、選択科目 15.5 単位(言語聴覚総合教育 2 単位、言語聴覚基盤教育 10 単位、言語聴覚障害学教育 3.5 単位)のうち「言語聴覚ゼミナールⅡ」もしくは「卒業研究」のいずれか 1 単位を含む 1 単位以上の合計 106.5 単位以上とする。全学教育科目と専門教育科目合計 133.5 単位(うち必修 121.5 単位)以上修得することが卒業要件となる。

4. 履修モデル

履修モデルは別紙のとおりである。言語聴覚士の就職は、小児領域と高齢者領域に分かれるが、上記の履修により双方に対応可能である。

履修科目の年間履修登録上限は、理学・作業療法学科と比較すると履修単位数が多いため、50 単位にする予定である。

(資料 3) 履修モデル

キ 施設、設備等の整備計画

(a) 校地、運動場の整備計画

リハビリテーション科学部を設置する当別キャンパスは、札幌市に隣接する当別町の田園地帯に位置し、緑豊かな丘陵を背負い、前方には石狩平野が広がる、自然豊かな教育環境である。

JR 学園都市線の「北海道医療大学駅」は当別キャンパスと直結されており、2012 年 6 月に JR 札幌駅間の電化も行われたことから、札幌駅～北海道医療大学駅間が 38 分のアクセスとなっている。

当別キャンパスの校地総面積は、290,863.28 m²で、その内、校舎・研究施設・福利厚生等の敷地面積が 261,312.28 m²、体育館、サッカー・ラグビー場、野球場、テニスコート等の運動場用地が 29,551 m²であり、大学設置基準を大きく上回っている。

学生の休息その他の利用のための適当な空地については、学生が休憩できるようベンチ等を設置したユニパーク(2,426 m²)を整備している他、薬用植物園に隣接した保安林内は 40 種類以上の北方系生態植物群が自生していることから、ここに全長 2km にわたる散策路を整備し、北方系生態観察園として、植物だけではなく、野鳥や昆虫、小動物の観察園として学生に活用されている。

(b) 校舎等施設の整備計画

リハビリテーション科学部を設置する当別キャンパスの現時点での総校舎面積は 79,797.13 m²である。リハビリテーション科学部が使用する校舎については、既設の中央講義棟(3 階建:4,755.92 m²)を 10 階建(15,973.01 m²)に増築し、講義室・実習室を整備した。増築棟の 4 階は、234 名が収容できる大講義室を 2 室、LL 教室を 2 室整備した。同 5 階は 100 名収容可能な講義室を 2 室、70 名収容可能な講義室を 1 室、50 名収容可能な講義室を 2 室整備した。各講義室にマルチメディアシステムを整備し、大講義室の机の上に LAN 配線・個別電源を整備した。

同 8 階は主に言語聴覚療法学科で使用する聴覚実験室(周波数分析騒音計、オーディオメー

ター)、発声発語演習室（音声評価装置等の測定機器）、視聴覚室等を整備し、学生数に対応した機器・備品を整備する。

(c) 図書等の資料及び図書館の整備計画

1) 図書館の設置状況

本学は、当別キャンパスに総合図書館を、また、札幌あいの里キャンパスに分館を、それぞれ設置している。

2) リハビリテーション科学部言語聴覚療法学科設置に伴う図書等の整備状況

本学の蔵書は、図書が 348,898 冊（総合図書館 192,691 冊、分館 24,237 冊、研究室・附属施設 24,451 冊、電子ブック 107,519 冊）、視聴覚資料が 6,565 点（総合図書館 4,428 点、分館 639 点、研究室・附属施設 1,498 点）、学術雑誌：11,376 種（総合図書館 2,167 種、分館 117 種、研究室・附属施設 343 種、電子ジャーナル 8,749 種）である。電子ブック 107,519 冊、電子ジャーナル 7,534 種は、当別キャンパスと札幌あいの里キャンパスで区別なく利用できる。

言語聴覚療法学科の設置に伴って必要となる資料（図書（電子ブック含む）・視聴覚資料・学術雑誌（電子ジャーナル含む））は、米国国立国会図書館分類法（NLMC）の WL（神経系）、WV（耳鼻咽喉学）の分野を中心に、本学には図書 5,125 冊、視聴覚資料 98 点、学術雑誌 71 種、電子ブック 2,216 冊、電子ジャーナル 69 種が整備されており、教育研究に支障はない。

各学部の図書（電子ブック含む）および視聴覚資料は、例年、収容定員×3,000 円を目安に予算計上しており、2014 年度は 17,144,000 円（薬学部 2,880,000 円、歯学部 1,680,000 円、看護福祉学部 2,280,000 円、心理科学部 1,590,000 円、リハビリテーション科学部 2,000,000 円、その他共用 6,714,000 円）となっている。その他雑誌（電子ジャーナル含む）の整備予算として 53,219,000 円を計上している。

なお、整備済み図書のうち、言語聴覚療法学分野の専門科目図書を 100 冊程度リストアップした詳細は別添資料に示す。

(資料 4) 学術雑誌リスト(言語聴覚療法学分野)

(資料 5) 電子ジャーナルリスト(言語聴覚療法学分野)

(資料 6) 専門科目図書 100 冊リストアップ(言語聴覚療法学分野)

3) 図書の冊数

蔵書構成(2014 年 3 月末集計)は、別添資料に示すとおり基礎医学系図서가 19,837 冊(8.2%)、臨床医学系図서가 69,836 冊(28.9%)、学術雑誌製本図서가 65,896 冊(27.3%)で、医学系の図서가全体の 64.4%(155,569 冊)を占めている。

(資料 7) 蔵書構成

4) デジタルデータベース、電子ブック・ジャーナル等の整備

デジタルデータベースは、現在 21 種を利用しているが、これらは言語聴覚療法学の関連医学系データベース（MEDLINE、JDreamIII、医中誌 Web など）を含んでいるので、教育研究に支障はない。

電子ブックは、107,519 冊を購読しており、総合分野をカバーした契約である。電子ジャーナルは、8,749 種（内国誌：1,580 種、外国誌：7,169 種）を購読しており、その多くが、医学系コンソーシアムや医学系パッケージによる契約である。これらのことから、言語聴覚

療法学科の教育研究に十分寄与する。

5) 図書館設備

図書館設備は以下のとおりである。

<p>閲覧室</p>	<p>総合図書館は、総面積 4,574 m²の 5 階建独立棟で、書架・閲覧席とも余裕のある配置をしている。</p> <p>分館は、心理科学部校舎内の 2 階部分に位置し、面積は 293 m²である。</p> <p>総合図書館・分館共に、床面はカーペット張を施し、防音対策をしている。また、冷暖房を完備し、四季を通して快適な学習環境を提供している。</p>
<p>閲覧席</p>	<p>総合図書館は 383 席（2014 年 5 月に 399 席に増設）。2018 年の完成年度の当別キャンパス学生収容定員 3,514 名の 10.9%（2014 年 5 月以降は 11.4%）分が確保されている。分館は 62 席。</p> <p>総合図書館には集団学習が可能なようにグループ閲覧室（1 室）を配置している。同室には大型テレビ、ビデオデッキなどの視聴覚機器や学内 LAN に対応した情報コンセントを設置している。</p>
<p>レファレンスルーム</p>	<p>総合図書館、分館それぞれに職員 2 名（司書有資格者）を常勤させ、平日は 9:00～17:00 の間、以下のレファレンスサービスを実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本学に所蔵していない資料の所蔵調査 ・ 文献の書誌事項の調査 ・ 図書の出版の有無 ・ OPAC/情報検索等の PC 機器の操作方法
<p>検索手法</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① オンライン蔵書目録（OPAC）を整備し、書名、著者名、主題などをキーワードとして入力することで、希望資料の検索や、所蔵の有無、貸出状況の確認ができる。OPAC 検索用端末は、総合図書館に 5 台、分館に 2 台設置している。本システムは、図書館のホームページから 24 時間、365 日利用可能である。また、学外からのアクセスも可能である。 ② 図書、雑誌、電子資料を一括検索できる統合検索サービスにより、検索結果から文献収集がナビゲートされ、一連の流れを合理的・統合的に検索可能である。 ③ 本学学術リポジトリより、本学紀要や学位論文約 3,000 コンテンツが閲覧可能である。 ④ 図書館の利用方法や資料/情報の探し方、データベースの使い方等の情報リテラシー講習会を開催している。
<p>延長開館・休日開館</p>	<p>平日は、16:50～21:00 まで延長開館を実施している。</p> <p>土曜日と試験期間の日曜日に休日開館を実施している。（2014 年度は、開館日数 316 日のうち休日開館日数は 78 日である。）</p>
<p>学習支援</p>	<p>総合図書館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報検索用 PC を 24 台、貸出用ノート PC を 7 台設置

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 視聴覚ブースに各種メディアに対応した視聴覚機器を 7 台設置 ・ 無線 LAN アクセスポイントを 4 箇所設置
	分館 <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報検索用 PC を 3 台設置 ・ 視聴覚機器を 2 台設置 ・ 学内 LAN に対応した情報コンセントを 29 口設置

6) 他大学図書館等との協力

現在、37 大学が 北海道地区大学図書館協議会相互利用サービスに加盟している。加盟大学の教職員・学生は、身分証・学生証を提示すると、加盟大学の資料の閲覧や貸出などのサービスを受けることができる。

なお、地域貢献の一環として、2006 年には地元当別町教育委員会と、また、2007 年には北海道立図書館と相互協力に関する締結を結び、相互に図書の貸借やレファレンスサービスを行っている。

(資料 8) 北海道地区大学図書館協議会相互利用サービス加盟大学一覧

ク 入学者選抜の概要

1. 入学者受入についての基本方針

北海道医療大学は「保健・医療・福祉の連携・統合を目指す創造的教育の推進」を教育理念とし、「新医療人育成の北の拠点を目指す」を行動目標として、チーム医療をはじめ地域社会や国際社会に貢献できる自立した専門職能人の育成を目指している。

そのため、北海道医療大学では、入学後の修学に必要な基礎的学力及び協調性や基礎的コミュニケーション能力を有し、生命を尊重し他者を大切に思う心、保健・医療・福祉に関心があり、地域社会ならびに人類の幸福に貢献するという目的意識を持った、生涯にわたって学習を継続し、自己を磨く意欲を持った人材を広く求めている。

以上を踏まえ、入学者選抜に当たっては、学力検査を主とした一般入学試験、大学入試センター試験利用入学試験の実施に加え、AO方式入学試験、推薦入学試験（指定校特別推薦入学試験及び一般推薦入学試験）といった特別選抜において、学力検査に偏重しない選抜方法を実施し、多様な学生を受け入れることとする。また、大学・短期大学・高等専門学校・専修学校（専門課程）卒業者等を対象とした、3年次への編入学試験を実施する。

なお、大学に入学することができる者は、学校教育法第 90 条の規定に基づき、高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者若しくは通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）、または文部科学大臣の定めるところにより、これと同等以上の学力があると認められた学校教育法施行規則第 150 条に定められている者とする。

2. 入学者選抜の方法・体制

入学者選抜は、特別選抜試験（AO方式入学試験、指定校特別推薦入学試験、一般推薦入学試験）及び一般選抜試験（一般入学試験、大学入試センター試験利用入学試験）を実施する。

募集人員は、特別選抜試験で約 40%、一般選抜試験で約 60%とする。

入学選抜の実施に当たっては、大学入学試験委員会を設置し、大学設置基準第 2 条の 2 及

び大学入学者選抜実施要領の規定に従い、公正かつ妥当な方法により厳正な入学選抜を実施する。

各選抜試験は以下のとおりである。

1) A O方式入学試験

A O方式入学試験は、第一志望として本学への入学を志す者で、本学の教育理念に共感し、本学に入学後の学習目標が明確であり、それを実現するに十分な意欲、適性及び能力を有し、かつ、本学を卒業後、地域社会ならびに国際社会に貢献することを希望する者を対象として行う。選抜は2段階で行い、1次選抜では、志願者調査書、志望理由書、志願者評価書、調査書による書類審査、2次選抜では面接と課題レポートを実施し、1次と2次の合計で合格者を決定する。

2) 推薦入学試験

推薦入学試験は、第一志望として本学への入学を志す者で出身学校長が推薦した者を対象とし、一般推薦、指定校特別推薦の2つの推薦入学試験制度を実施する。

- ・ 一般推薦入学試験

小論文・調査書・面接の結果を総合して合格者を決定する。

- ・ 指定校特別推薦入学試験

本学が予め指定した高校から推薦があった者に対し、出願書類及び面接結果を総合して合格者を決定する。

3) 一般入学試験

前期と後期の2回実施し、試験科目は①「英語Ⅰ・Ⅱ」、②「数学Ⅰ・A」または「国語総合（古文・漢文を除く）」から1科目選択、③「化学基礎」「生物基礎」「物理基礎」「世界史B」「日本史B」「地理B」「現代社会」「政治・経済」から1科目選択の3教科とする。

また、前期入試では試験日自由選択制を導入し、2日間設定されている試験日を自由に選択でき、2日間とも受験することも可能とする。

4) 大学入試センター試験利用入学試験

前期A、前期B、後期と3回実施する。試験科目として前期Aは①「英語」必修、②「数学Ⅰ」「数学Ⅰ・A」「数学Ⅱ」「数学Ⅱ・B」「国語（近代以降の文章）」から1科目選択、③「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」から2科目選択または「物理」「化学」「生物」「世界史A」「世界史B」「日本史A」「日本史B」「地理A」「地理B」「現代社会」「倫理」「政治・経済」「倫理、政治・経済」から1科目選択の3教科、前期B及び後期が①「英語」「数学Ⅰ」「数学Ⅰ・A」「数学Ⅱ」「数学Ⅱ・B」「国語（近代以降の文章）」から1科目選択、②「物理基礎」「化学基礎」「生物基礎」から2科目または「物理」「化学」「生物」「世界史A」「世界史B」「日本史A」「日本史B」「地理A」「地理B」「現代社会」「倫理」「政治・経済」「倫理、政治・経済」から1科目選択の2教科とする。

大学入試センター試験を利用した入学試験であることから、本学独自の試験は課さないこととする。

3. 3年次編入学試験

保健・医療・福祉の領域に深い関心を持ち、強い目的意識や高い学習意欲を有する者を対象にした3年次編入学試験を行う。

<編入学試験の概要>

区 分	一般選抜	社会人特別選抜
出願資格	<p>下記のいずれかに該当する者。</p> <p>(1) 大学を卒業もしくは卒業見込みの者</p> <p>(2) 大学に2年以上在学し、62単位以上を修得した者もしくはこれらの条件を満たす見込みの者</p> <p>(3) 医療技術系短期大学を卒業もしくは卒業見込みの者</p> <p>(4) 学校教育法第56条に定める12年の課程を修了し、かつ医療技術系専修学校（修業年限2年以上の専門課程、修了必要総授業時間数1,700時間以上）を卒業（修了）もしくは卒業（修了）見込みの者</p> <p>（注）(3)及び(4)の医療技術系……看護、臨床検査、診療放射線、理学療法、作業療法、臨床工学、言語聴覚、歯科衛生等の各分野</p>	<p>下記のいずれかに該当する者で、卒業等の後、概ね3年以上の社会人経験もしくは同等以上の経験がある者。</p> <p>(1) 大学を卒業した者</p> <p>(2) 大学に2年以上在学し、62単位以上を修得した者</p> <p>(3) 医療技術系短期大学を卒業した者</p> <p>(4) 学校教育法第56条に定める12年の課程を修了し、かつ医療技術系専修学校（修業年限2年以上の専門課程、修了必要総授業時間数1,700時間以上）を卒業（修了）した者</p> <p>（注）(3)及び(4)の医療技術系……看護、臨床検査、診療放射線、理学療法、作業療法、臨床工学、言語聴覚、歯科衛生等の各分野</p>
試験科目	英語、小論文、面接	英語、面接
編入学する学年	第3学年	
募集人員	10名	
	1期	7名
	2期	3名
合格者の決定	出願書類、試験成績、面接結果を総合して判定	

ケ 取得できる資格

卒業生が取得可能な資格は次のとおりである。

学科名	取得可能な資格	備考
言語聴覚療法学科	言語聴覚士 国家資格（受験資格）	

コ 実習の具体的計画

(a) 実習先の確保の状況

北海道内・東北地方の遠隔地の実習先は学生の出身地あるいは親族のいる地域を基本として配置している。それ以外の遠隔地の実習医療機関は、実習委託先の医療機関に学生の宿泊施設があることを確認し学生に負担にならないように配慮している。遠隔地の実習医療機関で、親族・医療機関に宿泊施設がない場合は、宿泊費の一部補助を実施している。

（資料9）実習施設一覧

(資料 10) 実習受入承諾書 (写)

(b) 実習先との契約内容

実習依頼をするすべての医療機関と「守秘義務」に関する協定書を結んでいる。「事故防止」に関しては、実習医療機関の安全対策に従う。事故を起こした責任に関しては北海道医療大学が負い、日本看護学校協議会共済会の総合保障制度「Will」加入により補償される。

(c) 実習水準の確保の方策

実習指導者の要件として、言語聴覚士としての臨床経験が5年以上としている。

(d) 実習先との連携体制

実習先に自己紹介状を提出するが、その中に連絡先として担任の連絡先（電話番号、メールアドレス）を記載している。実習前には、実習指導者会議を開催し達成目標等の確認を行っている（臨床実習マニュアルの配布）。

(e) 実習前の準備状況（感染予防対策・保険等の加入状況）

学外の実習前には、1年の基礎人間科学・解剖生理学の実習、3年時に履修する専門科目の演習、実習直前には北海道医療大学病院に設置されている「言語治療室」、「音声言語外来」「嚥下外来」の利用により、基本的な感染予防対策である universal precaution を学ぶ。

実習医療機関で事故を起こした際には、日本看護学校協議会共済会の総合保障制度「Will」加入により補償される。

(f) 事前・事後における指導計画

事前の指導計画に関しては以下の通りである。

- 1) 北海道医療大学病院における臨床見学：言語聴覚士による評価・治療の過程を見学し、臨床観察の実際を学習する。この病院実習では、日程表に則り実習が行われ臨床実習と同様に、実習内容を日誌に記載する。
- 2) PBL チュートリアル教育：症例の中から問題を抽出し、その問題を手がかりに学習を進める方法であり、少人数のグループがチューターの陪席の下に自主的に学習を行い、ケース・レポートを作成する。
- 3) 主要な言語・聴覚・発声発語・嚥下検査の技能習得：学外実習で必要とされる言語検査の技能的スキルを修得する。総合実習（学外臨床実習）に向け、臨床技能試験 OSCE(objective structured clinical examination)を実施し、技能面、態度面の自らの到達水準を確認するとともに、不足している面を補う。

(g) 教員及び助手の配置並びに巡回指導計画

学生の実習状況の把握：学生の実習状況については、担任教員が責任を持って把握することとなっている。担任教員は、必要に応じて実習指導者と連絡を取り、実習施設での実習に支障がないよう配慮し、実習指導者は、学生の出欠状況あるいは実習状況に問題がある場合、すみやかに担任教員と連絡を取ることになっており、巡回の日時の設定に関しては、実習指導との協議の上、講義のない曜日、時間に設定している。

遠隔地の実習施設の巡回の担当者は、担任ではなく、地域ごとに担当教員を決めており、その地域担当教員が、遠隔地の複数の実習医療機関の巡回を行うことになっているので、集中的に巡回することにより、結果的に他の個別の教員の負担の軽減となっている。

(h) 実習施設における指導者の配置計画

実習指導者の要件として、言語聴覚士としての臨床経験が5年以上としているが、現状では、学生数に対して、指導者数は充足している。

(i) 成績評価体制及び単位認定方法

1. 評価の対象

出席状況及び以下の領域の項目（行為能力）が評価の対象となる。

- | | | |
|-----------------|----|------------|
| 1) 基本的態度・行動情意領域 | …… | 情意領域 |
| 2) 評価・検査能力 | …… | 情意・認知・技能領域 |
| 3) 治療計画の立案能力 | …… | 認知領域 |
| 4) 治療・訓練・指導能力 | …… | 情意・認知・技能領域 |
| 5) 記録・報告 | …… | 技能領域 |

2. 評価の基準

評価は、実習終了時の状況を以下の基準で判定する。

- | | | |
|--------|----|-------------------|
| [A] 優 | …… | 助言・指導なしでもほぼできる |
| [B] 良 | …… | 助言・指導があればできる |
| [C] 可 | …… | 多くの助言・指導があればできる |
| [D] 不可 | …… | 多くの助言・指導があってもできない |

3. 評価の方法

1) 出席

全実習日数の90%以上を出席した学生は、実習指導者による評価を受けることができる。実習の出欠は1日単位とし、遅刻・早退は2回で欠席1日とする。なお、忌引及びやむを得ぬ事由（就職試験、交通事故など）は欠席扱いとしない。

2) 実習指導者による評価（全評価の75%）

実習指導者は、各領域の項目について評価基準を目安に、[A][B][C][D]で評価し、「臨床実習指導者報告書」に記入する。実習全体を通じて、今後努力すべき点、留意すべき点、その他、総合的な印象や評価について自由に記載する。学生評価の集計のため、実習終了後2週間以内に実習先から返信してもらう。

3) 学科教員による評価（全評価の25%）

臨床実習に関する自己評価票をもとに、実習日誌の記載の適切性を判断し、25点満点で評価する。

4) 最終成績評価

臨床実習の最終的な成績評価は、臨床実習指導者報告書による評価結果（75%）、及び学科教員による評価結果（25%）を合算し、本学科の実習委員会において単位認定する。

サ 海外語学研修の具体的計画

(a) 実習先の確保の状況

語学研修において、英語の授業を受けるほか、施設見学や色々な課外活動の体験を通して、外国人の考え方や日本とは異なる習慣や文化を学ぶことにより国際性をはぐくむことを目的とする。

研修内容は以下のとおりである。

- ① 15名程度を1クラスとする講義

- ② 近郊への日帰りまたは、宿泊旅行
- ③ アウトドアアクティビティ
- ④ 施設見学
- ⑤ フェアウェルパーティー

(b) 実習先との連携体制

研修受け入れ先としては、本学の姉妹校であるアルバータ大学(カナダ)を予定している。研修実施に当たっては、本学教員が同行することとし、現地コーディネーターと連携しながら研修を進める。

(c) 成績評価体制及び単位認定方法

海外語学研修の成績評価は、事前研修、現地研修とテスト、事後研修において一定の基準を満たした者について、英語科目1科目(英語Ⅰ(オーラル・イングリッシュA):1年前期、英語Ⅰ(オーラル・イングリッシュB):2年前期、英語Ⅱ(英語A):1年後期、英語Ⅱ(英語B):2年後期それぞれ1単位)と振り替えてその単位を認定する。事前研修、現地研修とテスト、事後研修の成績判定基準は以下の通りである。

各項目で60点以上をもって合格とする。成績評価は、優、良、可、不可の4段階で行い、評価基準は、100点満点の場合、優:80点以上、良:70~79点、可:60~69点、不可:60点未満とし、60点以上を合格とする。

ス 編入学制度

1. 編入学制度の概要

高齢社会において、高度な教育を受けたりハビリテーションスタッフの需要はますます必要とされている。3年次編入学制度は、保健・医療・福祉の領域に深い関心を持ち、強い目的意識や高い学習意欲を有する社会人等を広く社会に求め、その資格志向等を支援するものである。2年間で言語聴覚士国家試験受験資格を取得できる編入学制度は、大いに期待される。

編入学の定員は10名とし、1期で7名、2期で3名とする。

一般選抜の他、医療や福祉関連分野で概ね3年以上の社会人経験もしくは同等以上の経験がある者で、新たな資格や学位取得を希望する者に対しては、社会人特別選抜方式を導入して再教育の場を提供する。

区 分	一般選抜	社会人特別選抜
出願資格	下記のいずれかに該当する者。 (1) 大学を卒業もしくは卒業見込みの者 (2) 大学に2年以上在学し、62単位以上を修得した者もしくはこれらの条件を満たす見込みの者 (3) 医療技術系短期大学を卒業もしくは卒業見込みの者 (4) 学校教育法第56条に定める12年の課程を修了し、かつ医療技術系専修学校(修業年限2年以上の専門課程、修了必	下記のいずれかに該当する者で、卒業等の後、概ね3年以上の社会人経験もしくは同等以上の経験がある者。 (1) 大学を卒業した者 (2) 大学に2年以上在学し、62単位以上を修得した者 (3) 医療技術系短期大学を卒業した者 (4) 学校教育法第56条に定める12年の課程を修了し、かつ医療技術系専修学校(修業年限2年以上の専門課程、修了必

	要総授業時間数 1,700 時間以上) を卒業 (修了) もしくは卒業 (修了) 見込みの 者 (注) (3) 及び (4) の医療技術系……看護、 臨床検査、診療放射線、理学療法、作業 療法、臨床工学、言語聴覚、歯科衛生等 の各分野	要総授業時間数 1,700 時間以上) を卒業 (修了) した者 (注) (3) 及び (4) の医療技術系……看護、 臨床検査、診療放射線、理学療法、作業 療法、臨床工学、言語聴覚、歯科衛生等 の各分野
試験科目	英語、小論文、面接	英語、面接
編入学する学年	第 3 学年	
募集人員	10 名	
	1 期	7 名
	2 期	3 名
合格者の決定	出願書類、試験成績、面接結果を総合して判定	

1) 単位の認定方法

成績証明書その他、入学者に対してはシラバス、履修要項等の提出を求め、修得済み科目の授業内容を把握し、個別に科目ごとの単位認定を行う。

既修得単位は、全学教育科目、専門教育科目の選択科目と読み替えることになっており、専門教育科目の必修科目、言語聴覚ゼミナールⅡ又は卒業研究を履修すると卒業要件を満たす。なお、大学卒業生の編入生は、卒論に準じた科目を履修していると、卒業研究と読み替える。

(資料 11) 編入学後の履修モデル

2) 教育配慮等

入学後の履修については、総合的なガイダンスを行う他、個別に履修モデルを作成し指導する。

各学生には、担任教員の他、編入学運営委員会のもと編入学コーディネーターを配置し、綿密な調整をすることで、履修計画に齟齬を来たさぬよう配慮する。

また、下級学年開講の科目の履修が必要となる場合もあることから、時間割作成に当たっては特に留意し、夏期休暇、冬期休暇期間中に演習科目など一部の科目を集中的に開講し、学生の負担軽減を図る。

学部学生の 3 年前期までの科目に関しては、基本的に編入生は学部学生とともに履修するが、言語聴覚学総論Ⅱ (OSCE)、言語聴覚学総論Ⅲ (OSCE)、言語発達障害学演習、成人発声発語障害学演習、小児発声発語障害学演習、失語症学演習Ⅱ、高次脳機能障害学演習、聴覚障害学演習に関しては、総合実習 (臨床実習) を後期に実施しなければならないため、前期 (8 月) に集中講義を実施する。成績評価も、前期で決定され、その結果により後期の総合実習に臨むことになる。基礎実習・総合実習ともに学部学生とは別に時期を遅らせて後期に実施される。

ツ 管理運営

教員役職者としては、学部運営の最高責任者として学部長を置く。そのほか、学科長、学生部長、教務部長の責任者を置く。

教授会の構成員は教授とするが、学部長は、必要と認めるときは、教授会の議を経て、教授以外の教員を教授会に出席させることができることとする。

教授会の開催は定例月 1 回以上とし、(1)学部内規程等の制定及び改廃に関する事項、(2)学部教員の人事に関する事項、(3)予算に関する事項、(4)学生の入学・進学・転学・休学・退学及び卒業並びに除籍に関する事項、(5)教育課程の編成及び試験に関する事項、(6)学生の厚生補導並びに賞罰に関する事項など本学部の教育・研究及び運営等に関する重要事項を審議する。

教授会のもとには、就職、学生、教務等など学科共通の事案を検討・審議する各種委員会を置く。

テ 自己点検・評価

1. 実施方法

本学では、大学学則と同様に大学院学則においても「教育研究活動の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する」と定め、これに基づいて1992年9月に「点検評価規程」を制定し、自己点検・評価を実施している。

2. 実施体制

自己点検・評価の実施に当たっては「点検評価全学審議会」において、点検及び評価の基本方針並びに実施基準を設定している。「点検評価全学審議会」は学長を長とし、副学長、各学部長、総合図書館長、大学病院長、歯科衛生士専門学校長、个体差医療科学センター長、个体差健康科学研究所長、事務局長で構成し、事務は総務企画課が所轄している。「点検評価全学審議会」の下に、実施部局ごとに「評価委員会」を置き、点検と評価を行っている。また、「点検評価全学審議会」が行う点検評価に関して、本学職員からの質疑・異議の申立受理機関として「審査委員会」を置き、申立があった場合に、当該事項の資料収集、調査を行い、是正措置を講ずる体制を整備している。

3. 結果の活用・公表

自己点検・評価結果は、報告書として取りまとめ、学内外に広く公表し、積極的な情報公開に努めている。

また、7年周期で実施される外部評価の他、その間毎年度大学独自の点検・評価活動を行い、改善に向けた努力を行っている。

4. 評価項目

評価項目は「点検評価規程」第2条第2項において以下のとおり定めている。

- ①教育理念・目標に関する事項
- ②教育研究上の組織に関する事項
- ③学生受入に関する事項
- ④学生生活に関する事項
- ⑤教育活動に関する事項
- ⑥研究活動に関する事項

- ⑦診療及び臨床教育に関する事項
- ⑧教員組織に関する事項
- ⑨総合図書館・施設・設備に関する事項
- ⑩国際交流に関する事項
- ⑪社会との連携に関する事項
- ⑫広報に関する事項
- ⑬教育管理運営に関する事項
- ⑭自己評価体制に関する事項
- ⑮その他全学審議会が必要と認める事項

ト 情報の公表

教育および研究活動の状況を明らかにし、それらの成果が広く社会に活用されることは本学の社会に対する使命であると考え、また、社会的存在として大学を広く認知してもらうことも必要であるので、本学はさまざまな情報の提供を積極的に推し進めている。

大学ホームページにおいては、建学の理念から教育理念、教育目標、ならびに三ポリシー（入学者の受入れの方針・教育課程編成と実施の方針・学位授与の方針）など、大学及び各学部等の基盤となる考え方を示す。そして、それらに基づいて構築されている大学の根幹をなす教育課程については、4年間（あるいは6年間）の全体像を示したうえで教務日程、授業時間割、さらに授業内容の詳細に至るまで公表し、各学部および学科の特色も明らかにする。

また、大学院の基本的情報である各学部および学科の定員や在籍学生数、教員数、大学と大学院の学則などを掲載するとともに、専任教員や各講座を紹介するページも設けて大学の実像を広く社会に発信する。加えて教育活動の成果でもある国家試験の結果や卒後の就職状況などについても具体的な数値によって公表する。

一方、大学のもう一つの使命である研究活動に関しては、各教員が所属する学会を示した上で現在どのような研究課題に取り組んでいるかを公表し、研究の成果である著書や研究論文の実績を明らかにする。科学研究費補助金の受給状況についても、ホームページ上のニュースとして随時最新の情報を提供する。

大学の管理運営的側面の情報公開に関しては、各年度の財務状況（予算及び決算）および事業報告書を公表し、さらに2011年3月に財団法人大学基準協会より認証評価を受けたことについて評価報告書も併せて掲載する。

大学ホームページによる情報の公表に加えて、毎年6月に大学広報誌「MESSAGE」を発刊している（2013年度版は177ページ）。ここには、上述の教育や研究に関わる活動と実績、財務状況も含めた管理運営体制などを掲載し、加えて教育改革の取り組み、大学の施設と設備、履修と生活に関わる学生相談の体制、学生生活の現状、社会貢献の実績などについて、自己点検評価の概要を毎年更新して公表する。

①大学の教育研究上の目的に関すること

内容	URL (http://www.hoku-iryo-u.ac.jp ・・・)	サイト (トップ>情報の公表)
建学の理念・行動指針・三方針	/summary/rinen.html	大学の教育研究上の目的に関すること
大学院三方針	/summary/in-policy.html	
薬学部 教育理念・教育目標	/~pharm/rinen.html	
大学院薬学研究科 教育理念・教育目標	/~pharm/in/rinen.html	
歯学部 教育理念・教育目標	/~dental/rinen.html	
大学院歯学研究科 教育理念・教育目標	/~dental/in/rinen.html	
看護福祉学部 教育理念・教育目標	/~nss/rinen.html	
大学院看護福祉学研究科 教育理念・教育目標	/~nss/in/rinen.html	
心理科学部 教育理念・教育目標	/~shinri/rinen.html	
大学院心理科学研究科 教育理念・教育目標	/~shinri/in/rinen.html	
リハビリテーション科学部 教育理念・教育目標	/~rehabili/rinen.html	
大学院リハビリテーション科学研究科 教育理念・教育目標	/~rehabili/in/rinen.html	

②教育研究上の基本組織に関すること

内容	URL (http://www.hoku-iryo-u.ac.jp ・・・)	サイト (トップ>情報の公表)
組織・沿革	/summary/soshiki.html	教育研究上の基本的組織に関すること

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

内容	URL (http://www.hoku-iryo-u.ac.jp ・・・)	サイト (トップ>情報の公表)
教職員組織について	/summary/faculty-org.html	教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること
教員役職者等一覧	/summary/disc_data/yakusyoku.pdf	
年齢構成	/summary/faculty-org.html	
専任教員の学位及び主な研究内容について	/~jinji/topics/faculty-staff.html	
研究活動について	http://gyoseki.hoku-iryo-u.ac.jp/huhhp/KgApp	

④入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

内容	URL (http://www.hoku-iryo-u.ac.jp ・・・)	サイト (トップ>情報の公表)
入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）	/~koho/youkou/admission_index.html	入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること
入学者数	/summary/disc_data/nyugaku.pdf	
収容定員・在籍学生数・収容定員比率	/summary/disc_data/zaiseki.pdf	
編入学定員・編入学者数	/summary/disc_data/hennyu.pdf	
大学 卒業生数・就職者数	/summary/disc_data/sotu-syu-data.pdf	
大学 就職状況	/~syusyoku/jkokyo.html	
大学院 学位授与状況・就職状況	/summary/disc_data/gakuijuyodata.pdf	

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

内容	URL (http://www.hoku-iryo-u.ac.jp ・・・)	サイト (トップ>情報の公表)
シラバス	/for/student/syllabus.html	授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

内容	URL (http://www.hoku-iryo-u.ac.jp ・・・)	サイト (トップ>情報の公表)
履修カリキュラム	/for/student/syllabus.html	学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること
薬学部履修規程	/summary/disc_data/pharm-kitei.pdf	
歯学部履修規程	/summary/disc_data/dental-kitei.pdf	
看護福祉学部履修規程	/summary/disc_data/nss-kitei.pdf	
心理学部履修規程	/summary/disc_data/shinri-kitei.pdf	
リハビリテーション学部履修規程	/summary/disc_data/riha-kitei.pdf	
学位規程	/summary/disc_data/gakui.pdf	

⑦校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

内容	URL (http://www.hoku-iryo-u.ac.jp ・・・)	サイト (トップ>情報の公表)
アクセス・マップ	/summary/map.html	校地・校舎等の施設 及び設備その他の 学生の教育研究環 境に関すること
キャンパス・マップ	/~koho/faci/sogo.html	
キャンパス・アメニティ	/summary/disc_data/amenity.pdf	
施設・設備紹介	/~koho/faci/sogo.html	
施設・設備 整備状況	/summary/disc_data/shisetu.pdf	
クラブ紹介 体育局	/~koho/life/taiku_index.html	
クラブ紹介 文化局	/~koho/life/bunka_index.html	
総合図書館	http://library.hoku-iryo-u.ac.jp/	

⑧授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

内容	URL (http://www.hoku-iryo-u.ac.jp ・・・)	サイト (トップ>情報の公表)
学費について	/~koho/youkou/gakuhi_index.html	授業料、入学料そ 他の大学が徴収す る費用に関するこ と
編入学・大学院の学費について	/~koho/youkou/gakuhi_02.html	
薬学部「薬学教育・研究者育成奨学生」制度	/~koho/yaku_syougaku/index.html	
歯学部「特待奨学生」制度	/~koho/tokubetu/index.html	
看護福祉学部臨床福祉学科「福祉・介護人材育成奨学生」	/~koho/fuku_syougaku/index.html	
夢つなぎ入試	/~koho/yume/index.html	
学生生活 アパートマンションのご案内	/~koho/life/apa.html	

⑨大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

内容	URL (http://www.hoku-iryo-u.ac.jp ・・・)	サイト (トップ>情報の公表)
学生生活について	/for/student/seikatu.html	大学が行う学生の 修学、進路選択及び 心身の健康等に係 る支援に関するこ と
各種証明書について	/for/student/shioumei.html	
学生相談について	/for/student/soudan.html	
健康管理について	/for/student/kenkou.html	
学生援助金貸付制度	/for/student/enjyo.html	
本学奨学制度	/~koho/youkou/syougaku_index.html	
ハラスメント防止への対策について	/~jinji/haras/index.html	
就職支援について	/~syusyoku/	

- ⑩その他(教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報、学則等各種規定、設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況報告書、自己点検・評価報告書、認証評価の結果 等)

内容	URL (http://www.hoku-iryo-u.ac.jp ・・・)	サイト (トップ>情報の公表)
薬学部の特徴	/~pharm/yaku/tokusyoku.html	教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関すること
薬学部 資格・国家試験	/~pharm/yaku/sikaku.html	
歯学部の特徴	/~dental/den/tokusyoku.html	
歯学部 資格・国家試験	/~dental/den/sikaku.html	
看護福祉学部看護学科の特徴	/~nss/kan/tokusyoku.html	
看護福祉学部看護学科 資格・国家試験	/~nss/kan/sikaku.html	
看護福祉学部臨床福祉学科の特徴	/~nss/fuku/tokusyoku.html	
看護福祉学部臨床福祉学科 資格・国家試験	/~nss/huku/sikaku.html	
心理科学部臨床心理学科の特徴	/~shinri/shin/tokusyoku.html	
心理科学部臨床心理学科 資格	/~shinri/shin/sikaku.html	
心理科学部言語聴覚療法学科の特徴	/~shinri/gen/tokusyoku.html	
心理科学部言語聴覚療法学科 資格・国家資格	/~shinri/gen/sikaku.html	
リハビリテーション学部理学療法 学科の特徴	/~rehabili/riga/tokusyoku.html	
リハビリテーション学部理学療法 学科 資格・国家資格	/~rehabili/riga/sikaku.html	
リハビリテーション学部作業療法 学科の特徴	/~rehabili/sagyo/tokusyoku.html	
リハビリテーション学部作業療法 学科 資格・国家資格	/~rehabili/sagyo/sikaku.html	
学校法人東日本学園財務状況	/summary/zaimu.html	財務に関する状況
北海道医療大学学則	/summary/gakusoku.html	トップ>情報の公表 >大学概要>学則
認証評価結果	/summary/tenken.html	トップ>情報の公表 >大学概要>大学 評価

ナ 授業内容及び方法の改善を図るための組織的な取組

本学では、各学部、研究科ごとに設置されるFD委員会と全学的にFD活動を推進する「全学FD委員会」を設置し、「教育研究に携わる教員の資質あるいは能力開発」を目的として、種々の活動に取り組んでいる。その主な内容は、1) 教育、2) 研究、3) 社会サービス、4) 管理運営であり、教育には、1) カリキュラム、2) 教育内容、3) 教育・技術・技法が含まれている。

学生の授業評価は実施からすでに20年目を超え、学生、教員双方の意見を取り入れながら

年々改善がくわえられてきた。教員の資質向上のための組織的取り組みとしては、1999年度から2日間のFD（合宿）研修を、2004年度からは、新任教員研修をスタートさせ、毎年度定例開催しているほか、年2～3回のFDセミナー（シンポジウム等）を開催している。

また、全学FD活動とは別に、各学部独自の取り組みとして、例えば薬学部FD委員会では、学部独自でセミナーやワークショップを毎年度それぞれ1回開催している。

そのほかの取り組みとしては、「教員ハンドブック」や「FD News Letter」の発行も毎年継続して行っている。

二 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

1. 教育課程内の取組について

自立した言語聴覚士になるには、自ら考え、言語聴覚領域における主要な研究成果、最新の研究についての知識、訓練法を自ら学ぶ習慣を身に付ける必要がある。現在の医療は、証拠に基づいた医療：EBM（evidence based medicine）が求められ、言語聴覚関連領域においてもガイドラインが作成され、言語聴覚士は、ガイドラインが存在する領域ではガイドラインを踏まえて診療することが求められている。このガイドラインの理解にはその背景となる臨床研究成果を理解し、客観的・論理的思考をもって読み解くことが必要である。上記の態度、知識を涵養するために、3年前期において言語聴覚障害学の各領域を専門とする教員が少人数の学生を担当することによる言語聴覚ゼミナールⅠ（文献講読）を開講し、この科目で文献講読に必須な文献検索に関しても、医中誌・メディカルオンラインの利用方法の講習を学生全員が受講する。4年では、言語聴覚ゼミナールⅠで学んだ内容さらに深めた言語聴覚ゼミナールⅡ、研究体験の卒業研究のいずれかを履修することにより、証拠に基づいた医療を実践できる人材を養成する。上記の資質の養成は、専門職業人の資質として必須である。

2. 教育課程外の取組について

教育課程外においては、低学年次より段階的に職業観・社会人基礎力の涵養及び、学生が主体的で自主的な進路選択行動を行う力を身につけることを目的とした取組を実施する。

「先輩からのメッセージ」と題して、卒業生から言語聴覚士としての実際の職場での活動・業務内容、卒業生の歩んだキャリアなどを聞く場を設け、講義・演習のように科目ごとに細分化されていない全体像をイメージできるように、モデルとなる言語聴覚士像を提示する。

低学年より、実際の診療場面を見学できる医療大学病院言語治療室、嚥下外来の見学、学外の関連医療機関の行事、患者の会の行事、患者の（親の）会のキャンプ等の行事案内を学内掲示しボランティアスタッフとして積極的に参加するように促す。

3年次以降は学生支援課のキャリア・就職支援専門職員による、定期的な就職ガイダンスおよび個別面談の実施、4年次には併せて学生が主体的に参加する病院・施設見学の促進も行っていくなど、学生が自主的に具体的な就職活動を行うことが出来るよう支援を強化する。

3. 適切な体制の整備について

教育課程内は教員が、課程外の取組は学生が主体的に取り組むもののほかは、職員が主となり運営していくが、卒業までの4年間で学生の社会的及び職業的自立を図るために、教職員が綿密に連携し協働可能な体制をつくる。

医療系総合大学の強みを最大限発揮できるよう、他学部学科教員との連携で運営する「多職種連携（演習）」において、コメディカルでチーム医療に携わる体験学習を行う。

また教育課程内外の橋渡し役として、キャリア・就職支援専門職員が各種施策の企画・運営

等をコーディネートすることで、より効果的な連携を可能なものとする。

なお、就職委員会においては各種施策の協議と情報共有を行い、教授会等で各教員へ向けて、支援の方向性と具体的な施策を逐次フィードバックすることで、学部学科教員が一体となった動きをとることが出来る体制とする。

資料目次

インデックスNo.

資料 1	完成年次までの開講モデル	1
資料 2	定年規程	2
資料 3	履修モデル	3
資料 4	学術雑誌リスト	4
資料 5	電子ジャーナルリスト	5
資料 6	専門科目図書 100 冊リストアップ	6
資料 7	蔵書構成	7
資料 8	北海道地区大学図書館協議会相互利用サービス 加盟大学一覧	8
資料 9	実習施設一覧	9
資料 10	実習受入承諾書（写）	10
資料 11	編入学後の履修モデル	11

言語聴覚療法学科 開講モデル (2015年 前期)

【学部】		リハビリテーション科学部					【学部】		心理科学部							
【位置】		当別キャンパス					【位置】		札幌あいの里キャンパス							
曜日	学年	時間					曜日	学年	時間							
		I 9:00-10:30	II 10:30-11:50	III 12:40-14:00	IV 14:10-15:30	V 15:40-17:00			I 9:00-10:30	II 10:30-11:50	III 12:40-14:00	IV 14:10-15:30	V 15:40-17:00			
日	1	◆個体差健康科学 田村・今井智・太田・亀井・木下・玉重ほか		◆音声学 柳原・柳田早		◆英語 I Cain・Howard・Hoggard		◆文章指導 中川・西澤・田村・橋本・福田・森元・前田・柳田								
	2	X														
	3						◆言語発達学 山路・福田・柳田早		◆病理学 細川		日本語学 福田		人間と文化 福田			
	4								◆社会保障制度論 志水			◆成人発声発語障害学 飯泉・西澤・今井智				
編3 編4							◆総合実習 言語聴覚セミナーII									
月	1															
	2	X					◆音響学 柳原		生理心理学 百々		◆言語聴覚学 総論 I 今井・柳田・小林・飯泉・前田・黒崎ほか					
	3						◆小児発声発語障害学 今井智									
	4											◆総合実習 言語聴覚セミナーII				
編3 編4							◆小児発声発語障害学 今井智		◆成人発声発語障害学 飯泉・西澤・今井智							
火	1	◆基礎セミナー 今井・亀井・木下・柳原・玉重・島山・飯泉・小林 他		◆健康・運動科学 演習(通年) 山口・井上・森田												
	2	X														
	3						◆小児発声発語障害学 今井智		◆総合実習 言語聴覚セミナーII							
	4											◆小児発声発語障害学 今井智				
編3 編4																
水	1	人間と社会 薄井		人間と文化 花岡		人間と思想 磯部										
	2	X					公衆衛生学 志渡		◆英語 II 中島		◆小児科学 柴田		英語 III 北間			
	3						◆摂食嚥下障害学 演習 飯泉		◆摂食嚥下障害学 演習 飯泉		◆聴覚障害学演習(通年) 玉重・前田					
	4											◆総合実習 言語聴覚セミナーII				
編3 編4	◆摂食嚥下障害学 演習 飯泉						◆摂食嚥下障害学 演習 飯泉		◆聴覚障害学演習(通年) 玉重・前田							
木	1	◆基礎人間科学 下村		自然と科学 国水		◆情報処理演習 晶山		◆リハビリテーション概論 田村・泉・鎌田・佐々木・児玉								
	2	X					◆心理測定法 晶山		◆臨床心理学 富家		◆形成外科学 小山・古川・舟山・林・村尾					
	3						社会福祉援助技術 論 森		◆失語症学演習 I 亀井・黒崎		◆言語発達障害学 特論 福田・橋本・小林					
	4											◆総合実習 言語聴覚セミナーII				
編3 編4	◆失語症学演習 I 亀井・黒崎						◆言語発達障害学 特論 福田・橋本・小林		◆形成外科学 小山・古川・舟山・林・村尾							
金	1	人間と思想 森元		自然科学入門 石田												
	2	X					◆言語聴覚診断学 総論 今井・玉重・田村・飯泉・小林		◆医学総論 西澤・今井・木下・中川		◆関係法規 亀井・下村		◆内科学 中野倫・秋野・伊藤・小林正・辻・森谷		◆失語症学 I 中川・田村・黒崎	
	3						◆小児聴覚障害学 玉重・西澤・前田		◆高次脳機能障害学 中川・田村・黒崎							
	4											◆総合実習 言語聴覚セミナーII				
編3 編4	◆小児聴覚障害学 玉重・西澤・前田						◆高次脳機能障害学 中川・田村・黒崎		◆内科学 中野倫・秋野・伊藤・小林正・辻・森谷							
集中	1	X														
	2															
	3															
	4											◆言語聴覚学総論 III				
編3 編4	◆言語聴覚学総論 III		◆高次脳機能障害学 演習 田村・中川・黒崎		◆言語発達障害学 演習 橋本・小林・健		◆成人発声発語 障害学演習 飯泉・今井・柳田		◆小児発声発語 障害学演習 今井智・柳田早		◆失語症学演習 II 田村・黒崎					

◆ = 必修科目
選◆ = 選択必修科目

言語聴覚療法学科 開講モデル (2015年 後期)

【学部】		リハビリテーション科学部					心理科学部									
【位置】		当別キャンパス					札幌あいの里キャンパス									
曜日	学年	時間					曜日	学年	時間							
		I 9:00-10:30	II 10:30-11:50	III 12:40-14:00	IV 14:10-15:30	V 15:40-17:00			I 9:00-10:30	II 10:30-11:50	III 12:40-14:00	IV 14:10-15:30	V 15:40-17:00			
月	1	自然科学入門 国永	◆学習心理学 漆原	人間と思想 松岡	自然科学入門 橋本昇											
	2							自然と科学 木下・下村	◆英語Ⅱ 中島		◆失語症Ⅱ 亀井・大槻・黒崎					
	3							(~12月)◆成人発声発語障害学演習 飯泉・今井智・柳田早 (12月~)◆基礎実習		(~12月)◆高次脳機能障害学演習 田村・中川・黒崎 (12月~)◆基礎実習						
	4															
	編3 編4															
火	1	◆統計学 島山	◆発達心理学 今井常	◆英語Ⅱ 白鳥	医療倫理 森元・磯部	◆健康・運動科学 演習(通年) 山口・井上・森田										
	2							人間と思想 磯部		◆歯科学総論 川上・木下	遺伝学 太田					
	3							(~12月)◆言語発達障害学演習 橋本竜・小林健 (12月~)◆基礎実習		◆言語聴覚セミナーⅠ (12月~)◆基礎実習						
	4									卒業研究	言語聴覚セミナーⅡ					
	編3 編4															
水	1	◆音声言語聴覚医学 西澤・中川		人間と社会 姫嶋	◆言語聴覚障害学 概論 亀井											
	2							◆言語発達障害学 橋本竜・小林健	神経言語学 亀井・福田	人間と社会 千葉芳	◆精神医学 中川	◆耳鼻咽喉科学 西澤				
	3							(12月~)◆基礎実習		(~12月)◆聴覚障害学演習(通年) 玉重・前田 (12月~)◆基礎実習						
	4															
	編3 編4															
木	1	◆解剖生理学 下村	フランス語 柳田寛	人間と社会 姫嶋												
	2										人間と文化 柳田寛					
	3							(12月~)◆基礎実習		(~12月)英語論文講読・研究法 福田・榊原・下村 (12月~)◆基礎実習						
	4															
	編3 編4															
金	1		人間と社会 櫻井	自然科学入門 黒澤	◆言語学 福田											
	2							◆リハビリテーション医学 中川・飯泉・黒崎・小 林・前田・柳田	人間と社会 姫嶋	◆神経学 中川	◆成人聴覚障害学 玉重・西澤・前田	◆口腔外科学 永易				
	3							(~12月)◆小児発声発語障害学演習 今井智・柳田早 (12月~)◆基礎実習		(~12月)◆失語症学演習Ⅱ 田村・黒崎 (12月~)◆基礎実習		(12月~)◆基礎実習				
	4								言語聴覚学総論Ⅴ	◆言語聴覚学総論Ⅳ						
	編3 編4															
集中	1															
	2															
	3							◆言語聴覚学総論 Ⅱ								
	4															
	編3 編4															

言語聴覚療法学科 開講モデル (2016年 前期)

【学部】		リハビリテーション科学部					【学部】		心理学部														
【位置】		当別キャンパス					【位置】		札幌あいの里キャンパス														
曜日	学年	時間					曜日	学年	時間														
		I 9:00-10:30	II 10:30-11:50	III 12:40-14:00	IV 14:10-15:30	V 15:40-17:00			I 9:00-10:30	II 10:30-11:50	III 12:40-14:00	IV 14:10-15:30	V 15:40-17:00										
月	1	◆ 個体差健康科学 田村・今井智・太田・亀井・木下・玉重ほか		◆ 音声学 榑原・柳田早		◆ 英語 I Cain・Howard・Hoggard		◆ 文章指導 中川・西澤・田村・橋本・福田・森元・前田・柳田															
	2	◆ 病理学 細川		◆ 日本語学 福田		◆ 言語発達学 山路・福田・柳田早				◆ 成人発声発語障害学 飯泉・西澤・今井智		◆ 社会保障制度論 志水											
	3	X					◆ 総合実習 言語聴覚ゼミナール II																
	4						X																
	編3											X											
編4	X																						
火						1											◆ 中国語 呉		◆ 認知心理学 橋本竜		◆ 健康・運動科学 演習(通年) 山口・井上・森田		◆ 基礎ゼミナール 今井・亀井・木下・榑原・玉重・島山・飯泉・小林他
						2	◆ 音響学 榑原		◆ 生理心理学 百々		◆ 英語 I Cain・Hoggard												
						3	X					◆ 小児発声発語障害学 今井智											
	4	X										◆ 総合実習 言語聴覚ゼミナール II											
	編3											X											
編4	X																						
水							1	◆ 人間と社会 薄井		◆ 人間と思想 磯部							◆ 人間と文化 花潤						
						2	◆ 公衆衛生学 志渡		◆ ドイツ語 阿部		◆ 小児科学 柴田												
						3	X					◆ 摂食嚥下障害学 演習 飯泉		◆ 摂食嚥下障害学 演習 飯泉		◆ 聴覚障害学演習(通年) 玉重・前田							
	4	X										◆ 総合実習 言語聴覚ゼミナール II											
	編3											X											
編4	X																						
木							1	◆ 基礎人間科学 下村		◆ 情報処理演習 畠山							◆ 自然と科学 国永		◆ リハビリテーション概論 田村・泉・鎌田・佐々木・原玉				
						2	◆ 言語聴覚学 総論 I 今井・柳田・小林・飯泉・前田・黒崎ほか		◆ 人間と文化 花潤・半田・Howard		◆ 臨床心理学 富家						◆ 心理測定法 畠山		◆ 形成外科学 小山・古川・舟山・林・村尾				
						3	X					◆ 社会福祉援助 技術論 森		◆ 失語症学演習 I 亀井・黒崎		◆ 言語発達障害学 特論 福田・橋本・小林		◆ 高次脳機能障害学 中川・田村・黒崎					
	4	X										◆ 総合実習 言語聴覚ゼミナール II											
	編3											X											
編4	X																						
金							1	◆ 言語聴覚診断学 総論 今井・玉重・田村・飯泉・小林		◆ 医学総論 西澤・今井智・木下・中川							◆ 関係法規 亀井		◆ 内科学 中野倫・伊藤・小林・正・辻・森谷		◆ 失語症学 I 中川・田村		
						2	X																
						3						X					◆ 小児聴覚障害学 玉重・西澤・前田						
	4	X															◆ 総合実習 言語聴覚ゼミナール II						
	編3																X						
編4	X																						
集中							1	X															
						2	X																
						3							X										
	4	X																					
	編3											X											
編4	X																						

◆=必修科目
選◆=選択必修科目

言語聴覚法学科 開講モデル (2016年 後期)

【学部】						【学部】										
リハビリテーション科学部						心理学部										
【位置】						【位置】										
当別キャンパス						札幌あいの里キャンパス										
曜日	学年	時間				曜日	学年	時間								
		I 9:00-10:30	II 10:30-11:50	III 12:40-14:00	IV 14:10-15:30			V 15:40-17:00	I 9:00-10:30	II 10:30-11:50	III 12:40-14:00	IV 14:10-15:30	V 15:40-17:00			
月	1	自然科学入門 国水	◆学習心理学 漆原	人間と思想 松岡	自然科学入門 橋本昇											
	2		◆英語 II 白鳥	韓国語 甲	◆失語症学 II 亀井・大槻											
	3	X														
	4															
	編3															
編4																
	3					(~12月)◆成人発声発語障害学演習 飯泉・今井智・柳田早 (12月~)◆基礎実習					(~12月)◆高次脳機能障害学演習 田 村・中川・黒崎 (12月~)◆基礎実習					
火	1	◆統計学 島山	◆発達心理学 今井常	◆英語 II 白鳥	医療倫理 森元・磯部	◆健康・運動科学 演習(通年) 山口・井上・森田										
	2				◆商科学総論 川上・木下	遺伝学 太田										
	3	X														
	4															
	編3															
編4																
	3					(~12月)◆言語発達障害学演習 橋本竜・小林健 (12月~)◆基礎実習					◆言語聴覚セミナー I (12月~)◆基礎実習					
	4									卒業研究	言語聴覚セミナー II					
水	1	◆音声言語聴覚医学 西澤・中川			人間と社会 姫嶋	◆言語聴覚障害学 概論 亀井										
	2	◆言語発達障害学 橋本竜・小林健	神経言語学 亀井・福田		◆精神医学 中川	◆耳鼻咽喉科学 西澤										
	3	X														
	4															
	編3															
編4																
	3					(12月~)◆基礎実習					(~12月)◆聴覚障害学演習(通年) 玉重・前田 (12月~)◆基礎実習					
木	1	◆解剖生理学 下村		フランス語 柳田寛												
	2					人間と文化 千葉芳										
	3	X														
	4															
	編3															
編4																
	3					(12月~)◆基礎実習					(~12月)英語論文講読・研究法 福田・榎原・下村 (12月~)◆基礎実習					
金	1	人間と社会 姫嶋	人間と社会 櫻井	自然科学入門 黒澤		◆言語学 福田										
	2	◆リハビリテーション医学 中川・飯泉・小林健・ 前田・柳田早	◆成人聴覚障害学 玉重・西澤・前田	◆神経学 中川		◆口腔外科学 永易										
	3	X														
	4															
	編3															
編4																
	3					(~12月)◆小児発声発語障害学演習 今井智・柳田早 (12月~)◆基礎実習	(~12月)◆失語症学演習 II 田村・黒崎 (12月~)◆基礎実習					(12月~)◆基礎実 習				
	4					言語聴覚学総論 V					◆言語聴覚学総論 IV					
集中	1															
	2															
	3	X														
	4															
	編3															
編4																
	3					◆言語聴覚学総論 II										

言語聴覚療法学科 開講モデル (2017年 前期)

【学部】	リハビリテーション科学部					【学部】	心理科学部						
【位置】	当別キャンパス					【位置】	札幌あいの里キャンパス						
曜日	学年	時間					曜日	学年	時間				
		I 9:00-10:30	II 10:30-11:50	III 12:40-14:00	IV 14:10-15:30	V 15:40-17:00			I 9:00-10:30	II 10:30-11:50	III 12:40-14:00	IV 14:10-15:30	V 15:40-17:00
月	1	◆個体差健康科学 田村・今井智・太田・亀井・木下・玉重ほか	◆音声学 榑原・柳田早	◆英語 I Cain・Howard・Hoggard	◆文章指導 中川・西澤・田村・橋本・福田・森元・前田・柳田	X							
	2		◆病理学 細川	日本語学 福田	◆言語発達学 山路・福田・柳田早								
	3	◆社会保障制度論 志水	人間と文化 花岡・半田・千葉芳	◆成人発声発語障害学 飯泉・西澤・今井智									
	編3		◆病理学 細川	◆音声学 榑原・柳田早	◆言語発達学 山路・福田・柳田早								
	編4	◆総合実習 言語聴覚セミナー II											
火	1		中国語 呉	◆認知心理学 橋本竜	◆健康・運動科学 演習(通年) 山口・井上・森田	◆基礎ゼミナール 今井・亀井・木下・榑原・玉重・島山・飯泉・小林ほか	X						
	2	◆音声学 榑原	生理心理学 百々	◆英語 I Cain・Hoggard	◆言語聴覚学総論 I 今井智・柳田早・小林健・飯泉・西澤・黒崎ほか								
	3	◆小児発声発語障害学 今井智											
	編3	◆音声学 榑原	◆認知心理学 橋本竜		◆言語聴覚学総論 I 今井・柳田・小林・飯泉・前田・黒崎ほか								
	編4	◆総合実習 言語聴覚セミナー II											
水	1	人間と社会 薄井	人間と思想 磯部	人間と文化 花岡		X							
	2		公衆衛生学 志波	ドイツ語 阿部	◆小児科学 柴田								
	3	◆摂食嚥下障害学 演習 飯泉・木下・西澤	◆摂食嚥下障害学 演習 飯泉・黒崎	◆聴覚障害学演習(通年) 玉重・前田									
	編3			◆小児科学 柴田									
	編4	◆総合実習 言語聴覚セミナー II											
木	1	◆基礎人間科学 下村	◆情報処理演習 島山	自然と科学 国永	◆リハビリテーション概論 田村・泉・鎌田・佐々木・児玉	X							
	2		人間と文化 花岡・半田・Howard	◆臨床心理学 富家	◆形成外科学 小山・古川・舟山・林・村尾								
	3	社会福祉援助 技術論 森	◆失語症学演習 I 亀井・黒崎	◆言語発達障害学 特論 福田・橋本・小林									
	編3	◆基礎人間科学 下村	◆臨床心理学 富家	◆心理測定法 島山	◆リハビリテーション概論 田村・泉・鎌田・佐々木・児玉								
	編4	◆総合実習 言語聴覚セミナー II											
金	1	人間と思想 森元	自然科学入門 石田			X							
	2	◆言語聴覚診断学 総論 今井・玉重・田村・飯泉・小林	◆医学総論 西澤・今井・木下・中川	◆関係法規 亀井	◆内科学 中野倫・伊藤・小林正・辻・森谷		◆失語症学 I 中川・田村						
	3	◆小児聴覚障害学 玉重・西澤・前田	◆高次脳機能障害学 中川・田村	地域連携 国永ほか	多職種連携 泉ほか								
	編3	◆言語聴覚診断学 総論 今井・玉重・田村・飯泉・小林	◆医学総論 西澤・今井智・木下・中川	◆関係法規 亀井	◆失語症学 I 中川・田村								
	編4	◆総合実習 言語聴覚セミナー II											
集中	1					X							
	2	地域連携 百々ほか											
	3												
	編3												
	編4	◆言語聴覚学総論 III											

◆=必修科目
選◆=選択必修科目

言語聴覚療法学科 開講モデル (2017年 後期)

【学部】						リハビリテーション科学部						心理科学部																					
【位置】						当別キャンパス						札幌あいの里キャンパス																					
曜日	学年	時間					曜日	学年	時間																								
		I 9:00-10:30	II 10:30-11:50	III 12:40-14:00	IV 14:10-15:30	V 15:40-17:00			I 9:00-10:30	II 10:30-11:50	III 12:40-14:00	IV 14:10-15:30	V 15:40-17:00																				
月	1	自然科学入門 国永	◆学習心理学 漆原	人間と思想 松岡	自然科学入門 橋本昇	◆音声言語聴覚 医学 西澤・中川	月	1	X																								
	2		◆英語 II 白鳥	韓国語 甲	◆失語症学 II 亀井・大槻																												
	3	(～12月)◆成人発声障害学演習 飯泉・今井智・柳田早 (12月～)◆基礎実習			(～12月)◆高次脳機能障害学演習 田 村・中川・黒崎 (12月～)◆基礎実習			3						X																			
	4	X						4											X														
編3	◆学習心理学 漆原							◆失語症学 II 亀井・大槻	◆音声言語聴覚 医学 西澤・中川	編3	X																						
編4	X						編4	X																									
火						1	◆統計学 島山						◆発達心理学 今井常	◆英語 II 白鳥	医療倫理 森元・磯部	◆健康・運動科学 演習(通年) 山口・井上・森田	火	1	X														
	2				◆歯科学総論 川上・木下	遺伝学 太田	2	X																									
	3	(～12月)◆言語発達障害学演習 橋本竜・小林健 (12月～)◆基礎実習			◆言語聴覚ゼミナル I (12月～)◆基礎実習		3						X																				
	4	X					4											卒業研究						言語聴覚ゼミナル II	X								
編3	◆発達心理学 今井常																	◆歯科学総論 川上・木下	◆言語聴覚ゼミナル I	編3	X												
編4	X						編4	X																									
水						1							◆音声言語聴覚医 学 西澤・中川	◆言語聴覚障害学 概論 亀井	人間と社会 姫嶋		水	1	X														
	2	◆言語発達障害学 橋本竜・小林健	神経言語学 亀井・福田		◆精神医学 中川	◆耳鼻咽喉科学 西澤	2	X																									
	3	(12月～)◆基礎実習		(～12月)◆聴覚障害学演習(通年) 玉重・前田 (12月～)◆基礎実習			3						X																				
	4	X					4											X															
編3	◆言語発達障害学 橋本竜・小林健						◆音声言語聴覚 医学 西澤・中川																◆言語聴覚障害学 概論 亀井	◆精神医学 中川	◆耳鼻咽喉科学 西澤	編3	X						
編4	X						編4	X																									
木						1	◆解剖生理学 下村							フランス語 柳田寛		◆言語学 福田	木	1	X														
	2					人間と文化 千葉芳	2	X																									
	3	(～12月)英語論文講読・研究法 福田・神原・橋本竜 (12月～)◆基礎実習			(12月～)◆基礎実習		3						X																				
	4	X					4											X															
編3	◆解剖生理学 下村																							◆言語学 福田	編3	X							
編4	X						編4	X																									
金						1							人間と社会 櫻井	自然科学入門 黒澤	人間と社会 姫嶋		金	1	X														
	2	◆リハビリテーション医学 中川・飯泉・小林健・ 前田・柳田早	◆成人聴覚障害学 玉重・西澤・前田		◆神経学 中川	◆口腔外科学 永易	2	X																									
	3	(～12月)◆小児発声障害学演習 今井智・柳田早 (12月～)◆基礎実習		(12月～)◆基礎実習	(～12月)◆失語症学演習 II 田村・黒崎 (12月～)◆基礎実習		3						X																				
	4	X					4											言語聴覚学総論 V						◆言語聴覚学総論 IV	X								
編3	◆リハビリテーション医学 中川・飯泉・小林健・ 前田・柳田早						◆成人聴覚障害学 玉重・西澤・前田												◆神経学 中川	◆口腔外科学 永易	編3	X											
編4	X						編4	X																									
集中						1	X						集中	1	X																		
	2	X										2		X																			
	3											◆言語聴覚学総論 II								X				3	X								
	4											X												4						X			
編3	◆言語聴覚学総論 II	X				編3	X																										
編4	X					編4						X																					

言語聴覚法学科 開講モデル (2018年 前期)

【学部】						リハビリテーション科学部						心理学部																									
【位置】						当別キャンパス						札幌あいの里キャンパス																									
曜日	学年	時間					曜日	学年	時間																												
		I 9:00-10:30	II 10:30-11:50	III 12:40-14:00	IV 14:10-15:30	V 15:40-17:00			I 9:00-10:30	II 10:30-11:50	III 12:40-14:00	IV 14:10-15:30	V 15:40-17:00																								
月	1	◆個性差健康科学 田村・今井智・太田・亀井・木下・玉重ほか		◆音声学 榑原・柳田早		◆英語 I Cain・Howard・Hoggard		◆文章指導 中川・西澤・田村・橋本・福田・森元・前田・柳田			X																										
	2	◆病理学 細川		日本語学 福田		◆言語発達学 山路・福田・柳田早			X																												
	3	◆社会保障制度論 志水		人間と文化 花潤・半田・千葉芳		◆成人発声発語障害学 飯泉・西澤・今井智										X																					
	4	◆総合実習 言語聴覚ゼミナールII					X																														
	編3	◆病理学 細川		◆音声学 榑原・柳田早		◆言語発達学 山路・福田・柳田早															X																
	編4	◆社会保障制度論 志水		◆成人発声発語障害学 飯泉・西澤・今井智																						X											
火	1	中国語 呉		◆認知心理学 橋本竜		◆健康・運動科学演習 (通年) 山口・井上・森田								◆基礎ゼミナール 今井・亀井・木下・榑原・玉重・島山・飯泉・小林ほか																	X						
	2	◆音響学 榑原		生理心理学 百々		◆英語 I Cain・Hoggard						X																									
	3	◆小児発声発語障害学 今井智		X																																	
	4	◆総合実習 卒業研究							X																												
	編3	◆音響学 榑原															◆認知心理学 橋本竜		◆英語 I Cain・Hoggard			X															
	編4	◆小児発声発語障害学 今井智															X																				
水	1	人間と社会 薄井																									人間と思想 曙部		人間と文化 花潤		X						
	2	公衆衛生学 志波												ドイツ語 阿部		◆小児科学 柴田											◆言語聴覚学 総論 I 今井・柳田・小林・飯泉・前田・黒崎ほか			X							
	3	◆摂食嚥下障害学 演習 飯泉・木下・西澤		◆摂食嚥下障害学 演習 飯泉・黒崎		◆聴覚障害学演習(通年) 玉重・前田								X																							
	4	◆総合実習 卒業研究					X																														
	編3	◆小児科学 柴田		◆言語聴覚学 総論 I 今井・柳田・小林・飯泉・前田・黒崎ほか		X																															
	編4	◆摂食嚥下障害学 演習 飯泉・木下・西澤		◆摂食嚥下障害学 演習 飯泉・黒崎								◆聴覚障害学演習(通年) 玉重・前田							X																		
木	1	◆基礎人間科学 下村		◆情報処理演習 島山								自然と科学 国永												◆リハビリテーション概論 田村・泉・鎌田・佐々木・原玉			X										
	2	人間と文化 花潤・半田・Howard		◆臨床心理学 富家								◆心理測定法 島山												◆形成外科学 小山・古川・舟山・林・村尾								X					
	3	社会福祉援助 技術論 森		◆失語症学演習 I 亀井・黒崎								◆言語発達障害学 特論 福田・橋本・小林		X																							
	4	◆総合実習 卒業研究									X																										
	編3	◆基礎人間科学 下村		◆臨床心理学 富家		◆心理測定法 島山		◆リハビリテーション概論 田村・泉・鎌田・佐々木・原玉																X													
	編4	◆失語症学演習 I 亀井・黒崎		◆言語発達障害学 特論 福田・橋本・小林		◆形成外科学 小山・古川・舟山・林・村尾			X																												
金	1	人間と思想 森元		自然科学入門 石田		X																															
	2	◆言語聴覚診断学 総論 今井・玉重・田村・飯泉・小林		◆医学総論 西澤・今井智・木下・中川															◆関係法規 亀井		◆内科学 中野倫・伊藤・小林正・辻・森谷		◆失語症学 I 中川・田村						X								
	3	◆小児聴覚障害学 玉重・西澤・前田		◆高次脳機能 障害学 中川・田村												地域連携 国永ほか		多職種連携 泉ほか			X																
	4	◆総合実習 卒業研究【当別合同開講】												X																							
	編3	◆言語聴覚診断学 総論 今井智・玉重・田村・飯泉・小林健		◆医学総論 西澤・今井智・木下・中川															◆関係法規 亀井							◆失語症学 I 中川・田村								X			
	編4	◆小児聴覚障害学 玉重・西澤・前田		◆高次脳機能 障害学 中川・田村							◆内科学 中野倫・伊藤・小林正・辻・森谷		◆失語症学演習 II 田村・黒崎						X																		
集中	1	X																																			
	2						X																														
	3											X																									
	4																X																				
	編3																							X													
	編4																					X															

◆=必修科目
選◆=選択必修科目

言語聴覚法学科 開講モデル (2018年 後期)

【学部】						リハビリテーション科学部						心理学部								
【位置】						当別キャンパス						札幌あいの里キャンパス								
曜日	学年	時間					曜日	学年	時間											
		I 9:00-10:30	II 10:30-11:50	III 12:40-14:00	IV 14:10-15:30	V 15:40-17:00			I 9:00-10:30	II 10:30-11:50	III 12:40-14:00	IV 14:10-15:30	V 15:40-17:00							
月	1	自然科学入門 国永	◆学習心理学 漆原	人間と思想 松岡	自然科学入門 橋本昇	◆音声言語聴覚 医学 西澤・中川	月	1	X											
	2		◆英語 II 白鳥	韓国語 甲	◆失語症学 II 亀井・大槻															
	3	(～12月)◆成人発声発語障害学演習 飯泉・今井智・柳田早 (12月～)◆基礎実習			(～12月)◆高次脳機能障害学演習 田 村・中川・黒崎 (12月～)◆基礎実習									3	3	X				
	4																			
	編3	◆学習心理学 漆原		◆失語症学 II 亀井・大槻	◆音声言語聴覚 医学 西澤・中川															
編4	◆基礎実習 ◆総合実習					編4	編4	X												
火	1	◆統計学 晶山	◆発達心理学 今井常	◆英語 II 白鳥	医療倫理 森元・磯部								◆健康・運動科学演 習 (通年) 山口・井上・森田	火	1	X				
	2				◆歯科学総論 川上・木下								遺伝学 太田							
	3	(～12月)◆言語発達障害学演習 橋本竜・小林健 (12月～)◆基礎実習			◆言語聴覚セミナー I (12月～)◆基礎実習								3							
	4				卒業研究	言語聴覚セミナー II														
	編3	◆発達心理学 今井常		◆歯科学総論 川上・木下	◆言語聴覚セミナー I															
編4	◆基礎実習 ◆総合実習					編4	編4	X												
水	1		◆音声言語聴覚医 学 西澤・中川	◆言語聴覚障害学 概論 亀井	人間と社会 姫嶋									水	1	X				
	2	◆言語発達障害学 橋本竜・小林健	神経言語学 亀井・福田		◆精神医学 中川								◆耳鼻咽喉科学 西澤							
	3	(12月～)◆基礎実習		(～12月)◆聴覚障害学演習(通年) 玉重・前田 (12月～)◆基礎実習									3							
	4																			
	編3	◆言語発達障害学 橋本竜・小林健	◆音声言語聴覚医 学 西澤・中川	◆言語聴覚障害学 概論 亀井	◆精神医学 中川	◆耳鼻咽喉科学 西澤														
編4	◆基礎実習 ◆総合実習					編4	編4	X												
木	1	◆解剖生理学 下村		フランス語 柳田寛									◆言語学 福田	木	1	X				
	2												人間と文化 千葉芳							
	3	(～12月)英語論文講読・研究法 福田・神原・橋本竜 (12月～)◆基礎実習			(12月～)◆基礎実習								3							
	4																			
	編3	◆解剖生理学 下村				◆言語学 福田														
編4	◆基礎実習 ◆総合実習					編4	編4	X												
金	1		人間と社会 櫻井	自然科学入門 黒澤	人間と社会 姫嶋									金	1	X				
	2	◆リハビリテーション医学 中川・飯泉・小林健・ 前田・柳田早	◆成人聴覚障害学 玉重・西澤・前田		◆神経学 中川								◆口腔外科学 永易							
	3	(～12月)◆小児発声発語障害学演習 今井智・柳田早 (12月～)◆基礎実習		(12月～)◆基礎実習	(～12月)◆失語症学演習 II 田村・黒崎 (12月～)◆基礎実習								3							
	4		言語聴覚学総論 V	◆言語聴覚学総論 IV																
	編3	◆リハビリテーション医学 中川・飯泉・小林健・ 前田・柳田早	◆成人聴覚障害学 玉重・西澤・前田		◆神経学 中川	◆口腔外科学 永易														
編4	◆基礎実習 ◆総合実習 ◆言語聴覚学総論 IV					編4	編4	X												
集中	1													集中	1	X				
	2																			
	3	◆言語聴覚学総論 II											3							
	4																			
編3	◆言語聴覚学総論 II					編3	編3	X												
編4													編4	編4	X					

(資料2)

定年規程

昭和55年4月1日制定

(目的)

第1条 この規程は、学校法人東日本学園就業規則第23条の規定に基づく職員の定年に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(定年)

第2条 職員の定年は、次のとおりとする。

- (1) 教育職員 年齢満65歳
- (2) 事務職員、技術職員及び医療職員 年齢満60歳

(定年による退職)

第3条 職員は、定年に達したときは、定年に達した日以後における最初の3月31日に退職する。

(特例措置)

第4条 学長は、その任期にある間はこの規程によらない。

- 2 学部、学科を増設するときに任用しようとする教育職員が、既に第2条第1号に規定する年齢を超えているとき、又はその増設が完了する前に第2条第1号に規定する年齢を超えているとき、当該学部、学科が完了する年度末を定年年齢に読み変える。

(改廃)

第5条 この規程の改廃は、理事会が決定する。

附 則

この規程は、昭和55年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、昭和60年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成5年4月1日から施行する。

リハビリテーション科学部言語聴覚療法学科履修モデル

区分	授業科目	配当年次	単位数		履修方法及び卒業要件	履修モデル 1 言語聴覚ゼミナールⅡ を選択するコース				履修モデル 2 卒業研究 を選択するコース				履修モデル 3 幅広く選択科目 を履修するコース						
			必修	選択		一年次	二年次	三年次	四年次	一年次	二年次	三年次	四年次	一年次	二年次	三年次	四年次			
全学 教育科目	導入科目	基礎ゼミナール (コミュニケーション実践論)	1前	1		○				○				○						
		文章指導 (日本語の表現)	1前	1		○				○				○						
	教養科目	人間と思想 (心理学)	1後	2	1科目 2単位 以上履修	●				●										
		人間と思想 (死生学入門)	1前	2																
		人間と思想 (哲学入門)	1前	2												●				
		人間と文化 (文化人類学)	1前	2																
		人間と文化 (環境の歴史)	2後	2																
		人間と文化 (国際文化比較論)	2前	2	2科目 4単位 以上履修	●					●				●					
		人間と社会 (社会学入門)	1前	2																
		人間と社会 (医療の経済学)	1後	2								●								
		人間と社会 (医療の法学)	1後	2																
		人間と社会 (国際社会福祉論)	3前	2																
	自然と科学 (生命科学)	1前	2				●													
	外国語科目	英語Ⅰ (オーラル・イングリッシュA)	1前	1	5単位 以上履修	○				○				○						
		英語Ⅰ (オーラル・イングリッシュB)	2前	1				○			○					○				
		英語Ⅱ (英語A)	1後	1			●				●				●					
		英語Ⅱ (英語B)	2後	1																
		中国語 (中国語)	1前	1			●				●				●					
		韓国語 (韓国語)	2後	1								●					●			
		ドイツ語 (ドイツ語)	2前	1																
情報科学科目	情報処理演習 (情報処理演習)	1前	1		○				○				○							
	統計学 (基礎統計学)	1後	2		○				○				○							
健康・運動科学科目	健康・運動科学演習 (運動科学演習)	1通	2		○				○				○							
自然科学科目	自然科学入門 (基礎数理)	1前	1	2単位 以上履修																
	自然科学入門 (物理学)	1後	2																	
	自然科学入門 (生物学)	1後	2			●				●				●						
	自然科学入門 (化学)	1後	2																	
医療基盤科目	個体差健康科学 (個体差健康科学・多職種連携入門)	1前	2	5単位 以上履修	○				○				○							
	地域連携 (メディカル・カフェをつくるⅠ)	2前	1												●					
	地域連携 (地域包括ケア演習)	3前	1																	
	医療倫理 (医療倫理)	1後	2			○				○				○						
	多職種連携 (多職種連携論)	3前	1																	
小計						22	2	3	0	24	2	1	0	24	3	1	0			
専門 教育科目	言語聴覚障害学概論	1後	2	12単位 以上履修	○				○				○							
	言語聴覚診断学総論	2前	1				○			○				○						
	言語聴覚学総論Ⅰ	2前	1				○			○				○						
	言語聴覚学総論Ⅱ	3後	1					○			○									
	言語聴覚学総論Ⅲ	4前	1					○				○						○		
	言語聴覚学総論Ⅳ	4後	6					○				○						○		
	言語聴覚学総論Ⅴ	4後	2														●			
	言語聴覚学基盤教育	基礎人間科学	1前	4	48単位 以上履修	○				○				○						
		解剖生理学	1後	4							○				○					
		音声言語聴覚医学	1後	3							○				○					
		医学総論	2前	1.5											○					
		公衆衛生学	2前	2											○					
		遺伝学	2後	1.5											○					
		病理学	2前	1											○					
		内科学	2前	2											○					
		小児科学	2前	2											○					
		耳鼻咽喉科学	2後	2											○					
		形成外科学	2前	1											○					
		精神医学	2後	1											○					
		神経学	2後	1.5											○					
リハビリテーション医学		2後	1.5											○						
菌科学総論		2後	1											○						
口腔外科学		2後	1											○						
音声学		1前	2			○				○				○						
言語学		1後	2.5			○				○				○						
音響学		2前	4											○						
言語発達学		2前	1											○						
日本語学		2前	2											○						
神経言語学		2後	2											○						
認知心理学		1前	1.5			○				○				○						
学習心理学		1後	1.5			○				○				○						
発達心理学	1後	1.5		○				○				○								
生理心理学	2前	1.5										○								
臨床心理学	2前	1.5										○								
心理測定法	2前	1.5										○								
リハビリテーション概論	1前	2		○				○				○								
関係法規	2前	1.5										○								
社会保障制度論	3前	1										○								
社会福祉援助技術論	3前	1										○								
言語聴覚障害学教育	失語症学Ⅰ	2前	1	45.5単位 以上履修					○				○							
	失語症学Ⅱ	2後	1.5							○				○						
	高次脳機能障害学	3前	1.5											○						
	言語発達障害学	2後	2							○				○						
	言語発達障害学特論	3前	2											○						
	成人発声発語障害学	3前	4											○						
	小児発声発語障害学	3前	2.5											○						
	摂食嚥下障害学	3前	2											○						
	成人聴覚障害学	2後	2											○						
	小児聴覚障害学	3前	2											○						
	失語症学演習Ⅰ	3前	1											○						
	失語症学演習Ⅱ	3後	1											○						
	高次脳機能障害学演習	3後	1											○						
	言語発達障害学演習	3後	2											○						
	成人発声発語障害学演習	3後	2											○						
	小児発声発語障害学演習	3後	1											○						
	摂食嚥下障害学演習	3前	1											○						
	聴覚障害学演習	3通	3											○						
	基礎実習	3後	2											○						
	総合実習	4前	10											○						
英語論文講読・研究法	3後	1.5										○								
言語聴覚ゼミナールⅠ	3後	1										○								
言語聴覚ゼミナールⅡ	4通	1										○								
卒業研究	4通	1										○								
小計						24	33.5	31	18	24	35.5	32.5	18	24	38.5	32	20			
合計						46	35.5	34	18	48	37.5	33.5	18	48	41.5	33	20			
卒業要件単位数						133.5				137.0				142.5						
全学教育科目27単位(うち必修16単位)、専門教育科目106.5単位(うち必修105.5単位)、総計133.5単位以上(うち必修121.5単位)修得しなければならない。						133.5				137.0				142.5						

○:必修科目 ●:選択科目

(資料4)

学術雑誌リスト

言語聴覚療法学分野

No	タイトル	出版者	ISSN
1	Acta neurobiologiae experimentalis : journal devoted to basic research in brain physiology and behavioral sciences	Polish Scientific Publishers	00651400
2	Acta oto-laryngologica	Almqvist & Wiksell Periodical Co.	00016489
3	American annals of the deaf		0002726X
4	Annals of otology, rhinology and laryngology	Jones H. Parker	00034894
5	Aphasiology	Taylor & Francis	02687038
6	Archives of otolaryngology- head & neck surgery	American Medical Association	08864470
7	Archives of oto-rhino-laryngology	Springer-Verlag	03029530
8	Audiology : journal of auditory communication	Karger	00206091
9	Audiology Japan		03038106
10	Autonomic neuroscience: basic & clinical : official journal of the International Society for Autonomic Neuroscience	Elsevier	15660702
11	Brain : a journal of neurology	[Butterworths Scientific Publications]	00068950
12	Brain and language	Academic Press	0093934X
13	Brain and nerve	医学書院	18816096
14	Brain research : international multidisciplinary journal devoted to fundamental research in the brain sciences	Elsevier	00068993
15	Brain research reviews	Elsevier/North-Holland Medical Press	01650173
16	Brain research. Brain research protocols	Elsevier Science	1385299X
17	Brain research. Cognitive brain research	Elsevier Science	09266410
18	Brain research. Developmental brain research	Elsevier Science Publishers B.V.	01653806
19	Brain research. Gene expression patterns	Elsevier	1567133X
20	Brain research. Molecular brain research	Elsevier Science Publishers	0169328X
21	Cleft palate journal : an international journal of craniofacial anomalies	Publication of the American Cleft Palate Association	00098701
22	Clinical linguistics & phonetics	Taylor & Francis	02699206
23	Clinical neuroscience : 月刊臨床神経科学	中外医学社	02890585
24	Developmental brain research	Elsevier/North-Holland Biomedical Press	01653806
25	Discussions in neurosciences	Fondation pour l'étude du système nerveux central et périphérique	02548852
26	Electroencephalography and clinical neurophysiology	Elsevier Scientific	0921884X
27	European archives of oto-rhino-laryngology : official journal of the European Federation of Oto-rhino-laryngological Societies	Springer International	09374477
28	Experimental neurology	Academic Press	00144886
29	Experimental neurology. Part B, Neurobiology of disease	Academic Press	09699961
30	Gene expression patterns : a section mechanisms of development : GEP	Elsevier	1567133X
31	Hearing research	Elsevier/North-Holland Biomedical Press	03785955
32	JOHNS : journal of Otolaryngology, Head & Neck Surgery	東京医学社	09106820
33	Journal of communication disorders	American Elsevier	00219924
34	Journal of laryngology and otology	Oliver & Boyd	00222151
35	Journal of neural transmission	Springer	03009564
36	Journal of neural transmission : basic neurosciences and genetics, Parkinson's disease and allied conditions, Alzheimer's disease and related disorders, biological psychiatry	Springer	03009564
37	Journal of neurobiology	Wiley-Interscience	00223034
38	Journal of neurocytology	Chapman and Hall	03004864
39	Journal of neurophysiology	Charles C. Thomas	00223077
40	Journal of neuroscience methods	Elsevier/North-Holland Biomedical Press	01650270
41	Journal of speech and hearing research	American Speech and Hearing Association	00224685
42	Journal of the autonomic nervous system	Elsevier/North-Holland Biomedical Press	01651838
43	Journal of voice : official journal of the Voice Foundation	Raven Press	08921997
44	JSLHR : journal of speech, language, and hearing research	American Speech-Language-Hearing Association	10924388
45	Molecular and cellular neurosciences	Academic Press	10447431
46	Molecular brain research	Elsevier Science Publishers	0169328X
47	Neuron	Cell Press	08966273
48	Neurophysiology	Kluwer Academic/Plenum Publishers	00902977
49	Neuroscience	Pergamon Press	03064522
50	Otolaryngology-head and neck surgery : official journal of American Academy of Otolaryngology-Head and Neck Surgery	The Academy	01945998
51	Pain	Elsevier/North-Holland	03043959
52	The Cleft palate-craniofacial journal	American Cleft Palate-Craniofacial Association	10556656
53	The journal of comparative neurology	Wistar Institute of Anatomy and Biology	00219967
54	The Journal of neuroscience : the official journal of the Society for Neuroscience	Society for Neuroscience	02706474
55	The Journal of speech and hearing disorders	American Speech and Hearing Association	00224677
56	Trends in neurosciences	Elsevier Trends Journals	01662236
57	コミュニケーション障害学	日本コミュニケーション障害学会	13478451
58	音声研究会資料 : 日本音響学会音声研究会資料 : 音声総合研究委員会資料 : 聴覚研究会資料 : 音響学会研究委員会資料	日本音響学会,	
59	音声言語医学	日本音声言語医学会	00302813
60	月刊言語	大修館書店	02871696
61	高次脳機能研究 : 日本高次脳機能障害学会誌	日本高次脳機能障害学会	02859513
62	耳鼻咽喉科	医学書院	03869679
63	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	医学書院	09143491

(資料4)

学術雑誌リスト

言語聴覚療法学分野

No	タイトル	出版者	ISSN
64	耳鼻咽喉科臨床	耳鼻咽喉科臨床会	00326313
65	失語症研究：日本失語症研究会誌	日本失語症研究会	02859513
66	聴覚言語障害	聴覚言語障害研究会	03000338
67	聴能言語学研究	日本聴能言語士協会	09128204
68	日本口蓋裂学会雑誌		03865185
69	日本耳鼻咽喉科学會會報	日本耳鼻咽喉科学會	00306622
70	日本味と匂学会誌	[日本味と匂学会]	13404806
71	脳と神経	日本醫學雜誌	00068969

(資料5)

電子ジャーナルリスト

言語聴覚療学分野

No	タイトル	提供元	ISSN
1	American Journal of Health Education	ProQuest	1932-5037
2	American Journal of Health Studies	ProQuest	1090-0500
3	American Journal of Pharmaceutical Education	ProQuest	0002-9459
4	American Journal of Speech - Language Pathology	ProQuest	1058-0360
5	American Journal of Speech - Language Pathology (Online)	ProQuest	
6	American Speech Language Hearing Association. Asha	ProQuest	0001-2475
7	Chemistry and Technology of Fuels and Oils	Springer	1573-8310
8	Child Language Teaching and Therapy	ProQuest	0265-6590
9	International Journal of Speech Technology	Springer	1572-8110
10	International Journal of Speech Technology	Springer	1572-8110
11	JOURNAL OF CELLULAR BIOCHEMISTRY	Wiley STM	1097-4644
12	JOURNAL OF CELLULAR PHYSIOLOGY	Wiley STM	1097-4652
13	Journal of Child Language	ProQuest	0305-0009
14	Journal of child language	その他	
15	Journal of International Dental and Medical Research	ProQuest	1309-100X
16	Journal of International Entrepreneurship	Springer	1573-7349
17	Journal of Logic, Language and Information	Springer	1572-9583
18	Journal of Logic, Language and Information	Springer	1572-9583
19	Journal of Medical Biography	ProQuest	0967-7720
20	Journal of Memory and Language	ScienceDirect	0749-596X
21	Journal of Shanghai Jiaotong University (Science)	Springer	1995-8188
22	Journal of Signal Processing Systems	Springer	1939-8115
23	Journal of Speech, Language and Hearing Research (Online)	ProQuest	
24	Journal of Speech, Language, and Hearing Research	ProQuest	1092-4388
25	Journal of Voice	ScienceDirect	0892-1997
26	JSLHR : journal of speech, language, and hearing research	その他	
27	Labor Notes	ProQuest	0275-4452
28	Laboratory Animals	ProQuest	0023-6772
29	Laboratory Compliance Insider	ProQuest	1522-533X
30	Laboratory Hazards Bulletin	RSC	1476-3915
31	Laboratory Investigation	ProQuest	0023-6837
32	Laboratory Product News	ProQuest	0047-3855
33	Labour Market Trends	ProQuest	1361-4819
34	L'Actualité Économique	ProQuest	0001-771X
35	Language and Speech	ProQuest	0023-8309
36	Language in Society	ProQuest	0047-4045
37	Language Policy	Springer	1573-1863
38	Language Resources and Evaluation	Springer	1574-0218
39	Language Resources and Evaluation	Springer	1574-0218
40	Language Testing	ProQuest	0265-5322
41	Language, Speech & Hearing Services in Schools	ProQuest	0161-1461
42	Language, Speech & Hearing Services in Schools (Online)	ProQuest	
43	National Institutes of Health (NIH) Documents / FIND	ProQuest	
44	National Journal of Physiology, Pharmacy and Pharmacology	ProQuest	
45	National NOW Times	ProQuest	0149-4740
46	National Tax Journal	ProQuest	0028-0283
47	National Underwriter. Life & Health	ProQuest	0893-8202
48	Natural Language & Linguistic Theory	Springer	1573-0859
49	Natural Language & Linguistic Theory	Springer	1573-0859
50	Natural Language Engineering	ProQuest	1351-3249
51	Natural Language Semantics	Springer	1572-865X
52	Natural Language Semantics	Springer	1572-865X
53	Psychology & Marketing (pre-1986)	ProQuest	0742-6046
54	Psychology of Language and Communication	ProQuest	1234-2238
55	Shock Waves	Springer	1432-2153
56	Sign Language Studies	ProQuest	0302-1475
57	Speech Communication	ScienceDirect	0167-6393
58	Speech communication education	CiNii定額アクセス	
59	Studies in Meaning 4	ProQuest	
60	Studies in Second Language Acquisition	ProQuest	0272-2631
61	Topics in Companion Animal Medicine	ProQuest	1938-9736
62	Topics in Language Disorders	Ovid	0271-8294
63	音声言語医学	メディカルオンライン	0030-2813
64	言語聴覚研究	メディカルオンライン	1349-5828
65	言語聴覚療法	メディカルオンライン	0918-9718
66	聴覚言語障害	メディカルオンライン	0300-0338
67	聴能言語学研究	メディカルオンライン	0912-8204
68	電子情報通信学会技術研究報告. NLC. 言語理解とコミュニケーション	CiNii定額アクセス	
69	電子情報通信学会技術研究報告. TL. 思考と言語	CiNii定額アクセス	

専門科目図書100冊リストアップ

言語聴覚療法学分野選書

No	タイトル	編著者	出版者	版
1	摂食嚥下障害 言語聴覚療法シリーズ 15	清水充子編著；藤谷順子〔ほか〕共著	建帛社	改訂
2	言語聴覚療法臨床マニュアル	平野哲雄〔ほか〕編	協同医書出版社	改訂第2版
3	シンプル衛生公衆衛生学 2014	鈴木庄亮, 久道茂は監修	南江堂	2014年版
4	わかりやすい公衆衛生学 第3版	竹田美文, 安達修一編著；竹田美文〔ほか〕共著	三共出版	第3版
5	嚥下障害ポケットマニュアル 第3版	聖隷嚥下チーム執筆	医歯薬出版	第3版
6	言語聴覚療法：臨床マニュアル改訂第2版	平野哲雄	協同医書出版社	改訂第2版
7	シンプル生化学 改訂第5版	野口正人, 五十嵐和彦編	南江堂	改訂第5版
8	医療倫理学の方法：原則・手順・ナラティブ第2版	宮坂道夫著	医学書院	第2版
9	新しい公衆衛生学 第3版	浦久保五郎編	廣川書店	第3版
10	構音訓練のためのドリルブック改訂第2版	岡崎恵子, 船山美奈子編著；今井智子〔ほか〕著	協同医書出版社	改訂第2版
11	地域ケアにおける感染対策：在宅ケア施設ケア統一マニュアル 第2版	高木宏明著	医歯薬出版	第2版
12	心理・教育のための統計法 第2版	山内光哉著	サイエンス社	第2版
13	言語学を学ぶ人のために	西田龍雄編	世界思想社	初版
14	デカルト派言語学：合理主義思想の歴史の一章	ノーム・チョムスキー著；川本茂雄訳	みすず書房	初版
15	言語と言語学習：理論と実際	Brooks, Nelson著；納谷友一, 青木昭六訳注	大修館	初版
16	言語学とは何か(現代言語学の基礎シリーズ:1)	田中克彦著	岩波書店	初版
17	吃音診断学序説	内須川洸著	風間書房	初版
18	口蓋裂・構音障害(アドバンスシリーズ, コミュニケーション障害の臨床:6)			初版
19	構音障害の臨床：基礎知識と実践マニュアル 改訂2版	阿部雅子著	金原出版	改訂2版
20	運動障害性構音障害(言語聴覚療法シリーズ:9) 改訂版	熊倉勇美	建帛社	改訂版
21	失語症言語治療の理論と実際	Roberta Chape〔編〕；河内十郎, 河村瀧監修	新樹会創造出版	初版
22	脳卒中後のコミュニケーション障害：成人コミュニケーション障害者の理解と援助:失語症を中心に	竹内愛子	協同医書出版社	改訂第2版
23	失語症(言語聴覚療法シリーズ:4)	石川裕治編著；波多野和夫〔ほか〕共著	建帛社	改訂
24	失語症の言語療法：語彙訓練	草野嘉直編著；草野義尊, 相澤悟, 児山律子著	エスコアール	新訂
25	失語症のリハビリテーション：全体構造法のすべて	道関京子編集	医歯薬出版	第2版
26	失語症の人と話そう：失語症の理解と豊かなコミュニケーションのために 改訂	言語障害者の社会参加を支援するパートナーの会・和音編集	中央法規出版	改訂
27	高次脳機能障害(言語聴覚療法シリーズ:3)	長谷川賢一編著；大槻美佳〔ほか〕共著	建帛社	第2版
28	脳血管障害による高次脳機能障害ナーシングガイド	小山珠美, 所和彦監修	日総件出版	初版
29	高次脳機能障害ポケットマニュアル	相澤病院リハビリテーション科執筆	医歯薬出版	第2版
30	高次脳機能障害のリハビリテーション：実践的アプローチ	本田哲三編集；本田哲三〔ほか〕執筆	医学書院	第2版
31	Q&A脳外傷：高次脳機能障害を生きる人と家族のために 第2版	日本脳外傷友の会	明石書店	初版
32	医師・歯科医師のための摂食・嚥下障害ハンドブック	本多知行, 溝尻源太郎編	医歯薬出版	第2版
33	摂食・嚥下障害の患者さんと家族のために	西尾正輝著	インテルナ出版	改訂第3版
34	よくわかる摂食・嚥下のメカニズム	山田好秋著	医歯薬出版	第2版
35	高次脳機能障害者の世界 - 私の思うリハビリや暮らしのこと(改訂第2版)	山田規敏子編著	協同医書出版社	改訂第2版
36	言語聴覚士・理学療法士・作業療法士の仕事が変わる本(改訂版)	法学書院編集部編	法学書院	改訂版
37	言語聴覚障害総論1	山崎京子編著	建帛社	初版
38	音声障害の臨床	廣瀬肇著	インテルナ出版	初版
39	呼吸, 発声, 歌唱	D.F.プロクター著；原田康夫訳	西村書店	初版
40	言語障害事例による用語解説	松本治雄, 後上鐵夫編著	ナカニシヤ出版	初版
41	絵でわかる言語障害	毛束真知子著	学研メディカル	初版
42	リハビリテーション医学全書 言語学障害	笹沼澄子編	医歯薬出版	初版
43	言語障害 放送大学教材	内須川洸著	放送大学教育新興会	初版
44	口蓋裂 - 言語障害の病理・診断・治療	Sally J. Peterson-Falzone, Mary A. Hardin-Jones, Michael P. Karnell著；和田健監訳	医歯薬出版	第2版
45	視覚聴覚言語障害児の医療療育教育	今野正良, 長崎勤, 土橋圭子編集	金芳堂	改訂第2版
46	聴覚・言語障害者とコミュニケーション - 形態別介護技術「聴覚及び言語障害の介護」テキスト			新訂版
47	言語聴覚療法臨床マニュアル	全国手話通訳問題研究会企画・編集	中央法規	改訂第2版
48	DVDで学ぶ手話の本 5級(手話でステキなコミュニケーション:1-3)	全国手話研修センター編	中央法規	初版
49	DVDで学ぶ手話の本 4級(手話でステキなコミュニケーション:1-3)	全国手話研修センター編	中央法規	初版
50	DVDで学ぶ手話の本 3級(手話でステキなコミュニケーション:1-3)	全国手話研修センター編	中央法規	初版
51	わたしたちの手話	全日本ろうあ連盟, 日本手話研究所「日本手話確定普及研究部」編纂；全日本ろうあ連盟出版局編集	全日本ろうあ連盟出版局	初版
52	新・手話辞典	全国手話研修センター日本手話研究所編集	中央法規	初版
53	言語聴覚研究	日本言語聴覚士協会編	日本言語聴覚協会	初版
54	よくわかる！手話の筆記試験対策テキスト	全国手話研修センター編	中央法規	改訂
55	新耳鼻咽喉科学	切替一郎原著；加我君孝	南山堂	10版
56	嚥下障害診療ガイドライン	日本耳鼻咽喉科学会編	金原出版	初版

専門科目図書100冊リストアップ

言語聴覚療法学分野選書

No	タイトル	編著者	出版者	版
57	言語障害—失語症・運動障害性構音障害・嚥下障害・脳性麻痺の言語障害	笹沼澄子編	医歯薬出版	第2版
58	聴覚と音声	電子通信学会編；勝木保次〔ほか〕執筆	コロナ社	新版
59	言語病理学診断法	Frederic L. Darley, D.C. Spriestersbach編著	協同医書出版社	第2版
60	新編言語治療マニュアル	伊藤元信, 笹沼澄子編	医歯薬出版	初版
61	失語症の障害メカニズムと訓練法	小嶋知幸著	新興医学出版社	改訂第2版
62	失行・失認の評価と治療：成人片麻痺を中心に	バーバラ・ソルタン著；河内十郎監訳；河内薫訳	医学書院	第2版
63	言語障害こわくない	高橋徹著	風媒社	初版
64	言語治療用ハンドブック	田口恒夫編	日本文化科学社	新訂
65	実用コミュニケーション能力検査	綿森淑子〔ほか〕著	医歯薬出版	増補版
66	神経症候学1	平山恵造著	文光堂	改訂第2版
67	神経症候学2	平山恵造著	文光堂	改訂第2版
68	言葉がでない！失語症の理解と、患者をもつ家族のために	伊林克彦著	考古堂書店	増補版
69	標準高次動作性検査	日本高次脳機能障害学会(旧日本失語症学会)Brain Function Test委員会著；日本高次脳機能障害学会(旧日本失語症学会)編	新興医学出版社	改訂
70	言語聴覚士テキスト	岩田誠, 小川郁, 立石雅子編著	医歯薬出版	第2版
71	こえとことばの科学	林義雄	鳳鳴堂書店	初版
72	コンピュータ用語の手話	日本聴覚障害者コンピュータ協会手話研究部編著	日本聴覚障害者コンピュータ協会	初版
73	神経病へのアプローチ	本多虎夫著	医学書院	第4版
74	臨床に役立つ神経解剖学	Stephen Goldberg著；木下真男訳	総合医学社	改訂
75	ハインズ神経解剖学アトラス	デュアン E. ハインズ著；佐藤二美訳	ディカル・サイエンス・インターナショナル	第4版
76	神経病理組織学入門	武谷止孝著	アルファ・メディカル	複製版
77	耳鼻咽喉科学新書	EM新書刊行会編	金芳堂	改訂4版
78	NEW耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	喜多村健, 森山寛編集	南江堂	初版
79	言語治療用ハンドブック	口恒夫編	日本文化科学社	新訂
80	難聴・耳鳴り・めまい	齋藤春雄著	最新医学社	初版
81	耳鼻咽喉科学新書	EM新書刊行会編	金芳堂	初版
82	痙攣性発声障害：そのメカニズムと治療の現状	小林武夫編	時空出版	初版
83	口唇口蓋裂の理解のために：すこやかな成長を願って	夏目長門, 鈴木俊夫著	医歯薬出版	初版
84	聴力検査を行う人のための図解実用的マスキングの手引き	服部浩著	中山書店	初版
85	基本的聴覚検査マニュアル	服部浩著	金芳堂	初版
86	聴覚・言語障害者とコミュニケーション：形態別介護技術「聴覚及び言語障害の介護」テキスト	全国手話通訳問題研究会企画・編集	中央法規	初版
87	聴覚と言語の世界	長淵正昭	東北大学出版会	初版
88	「イラスト」めまいの検査	日本めまい平衡医学会編	診断と治療社	初版
89	要説耳鼻咽喉科学	廣戸幾一郎著	金芳堂	初版
90	臨床老年耳鼻咽喉科学	Kashima, [Haskins, K.], Goldstein, [Jerome, C.], Lucente, [Frank E.]編；野村恭也監訳	東京医学者	初版
91	教師と親のための補聴器活用ガイド	大沼直樹	コレール社	初版
92	言語聴覚士国家試験過去問題3年間の解答と解説(2014年版)	言語聴覚士国家試験対策委員会	大揚社	2014年版
93	言語聴覚士国家試験出題基準(平成25年4月版)	医療研修推進財団	医歯薬出版	2014年版
94	DVDで学ぶ手話の本1級(手話でステキなコミュニケーション:1-3)	全国手話研修センター編	中央法規	初版
95	DVDで学ぶ手話の本準1級(手話でステキなコミュニケーション:1-3)	全国手話研修センター編	中央法規	初版
96	聴覚障害者問題の理解と解決のために	聴覚障害者問題研究会	聴覚障害者問題研究会	改訂2版
97	言語聴覚士国家試験予想問題集	言語聴覚士国家試験対策委員会	ブレーン出版	2014年版
98	標準高次視覚検査 改訂版	日本高次脳機能障害学会	新興医学出版社	初版
99	言語学序説	ソシール著；山内貴美夫	勁草書房	初版
100	ことばの哲学 新版(現代哲学選書・4)	坂本百大	北樹出版, 学文社(発売)	新版
101	ことばのカルテ 第2版 1	茂手木皓喜編	メディカルトリビューン	初版
102	ことばのカルテ 第2版 2	茂手木皓喜編	メディカルトリビューン	初版
103	小児のことばの障害：言語障害・音声障害(小児のメディカル・ケア・シリーズ:13)	加我牧子編著；加我牧子, 稲垣真澄, 宇野彰共	医歯薬出版	新版
104	乳幼児のことばの世界：聞くこと・話すことを育む知恵	高橋司著	宮帯出版社	新装版
105	ことばの社会心理学	岡本真一郎著	ナカニシヤ出版	4版
106	新しい日本語学入門：ことばのしくみを考える	庵功雄著	スリーエーネットワーク	2版
107	難聴の診断と治療	立木孝著	南江堂	新版
108	難聴児と聴能およびその補聴	坂部長正〔ほか〕共著	学苑社	初版
109	音声障害 言語聴覚療法シリーズ	疋安誠, 城本修編著；榊原健一〔ほか〕共著	建帛社	改訂
110	高次脳機能障害 言語聴覚シリーズ	長谷川賢一編著；大槻美佳〔ほか〕共著	建帛社	改訂
111	失語症 言語聴覚療法シリーズ	石川裕治編著；波多野和夫〔ほか〕共著	建帛社	改訂
112	言語発達障害 言語聴覚療法シリーズ1	大貝茂編著；安原佳子, 高橋泰子, 喜舎場国夫共	建帛社	改訂
113	言語発達障害 言語聴覚療法シリーズ2	大貝茂編著；安原佳子, 高橋泰子, 喜舎場国夫共	建帛社	改訂

(資料6)

専門科目図書100冊リストアップ

言語聴覚療法学分野選書

No	タイトル	編著者	出版者	版
114	言語発達障害 言語聴覚療法シリーズ3	大貝茂編著；安原佳子，高橋泰子，喜舎場国夫共	建帛社	改訂
115	脳卒中・神経難病による発音・発声の障害：ST・家族・医療福祉専門職のための ディスアースリア・ガイドブック	玉井直子，木村康子著； 玉井直子編	ライブストーン	初版
116	言語聴覚士国家試験受験対策実戦講座：実戦式ファイナルチェック	梅田悦生，梅田紘子著	診断と治療社	2014年版
117	小児科学・発達障害学	宮尾益知編集；宮尾益知 [[ほか]執筆	医学書院	初版
118	ナースのための摂食・嚥下障害ガイドブック	藤島一郎，藤森まり子，北 條京子編著	中央法規	初版
119	摂食嚥下リハビリテーション	鎌倉やよい [[ほか] 編集 都筑澄夫編著；坂田善政	医歯薬出版	初版
120	吃音	[[ほか] 共著	建帛社	改訂

(資料7)

蔵書構成

・米国国立医学図書館分類法(NLMC)

基礎医学系

QS	人体解剖学	1,770冊	0.7%
QT	生理学	1,946冊	0.8%
QU	生化学	3,480冊	1.4%
QV	薬理学	7,023冊	2.9%
QW	微生物学と免疫学	1,919冊	0.8%
QX	寄生虫学	50冊	0.0%
QY	臨床病理学	1,277冊	0.5%
QZ	病理学	2,372冊	1.0%
計		19,837冊	8.2%

臨床医学系

W	医業	7,265冊	3.0%
WA	公衆衛生	4,053冊	1.7%
WB	臨床医学	4,609冊	1.9%
WC	感染症	417冊	0.2%
WD	全身性疾患、代謝性疾患、環境由来の疾患など	409冊	0.2%
WE	筋骨格系	1,603冊	0.7%
WF	呼吸器系	632冊	0.3%
WG	心臓血管系	1,139冊	0.5%
WH	血液系とリンパ系	470冊	0.2%
WI	消化器系	1,293冊	0.5%
WJ	泌尿生殖器系	442冊	0.2%
WK	内分泌系	630冊	0.3%
WL	神経系	3,457冊	1.4%
WM	精神医学	7,284冊	3.0%
WN	放射線医学.画像診断	1,021冊	0.4%
WO	外科学	1,826冊	0.8%
WP	婦人科学	433冊	0.2%
WQ	産科学	742冊	0.3%
WR	皮膚科学	446冊	0.2%
WS	小児科学	3,828冊	1.6%
WT	老年医学.慢性疾患	1,358冊	0.6%
WU	歯科学.口腔外科学	12,447冊	5.2%
WV	耳鼻咽喉科学	1,546冊	0.6%
WW	眼科学	592冊	0.2%
WX	病院その他の保健医療施設	927冊	0.4%
WY	看護学	10,228冊	4.2%
WZ	医学史	307冊	0.1%
Z	論文の書き方など	432冊	0.2%
計		69,836冊	28.9%

・日本十進分類法(NDC)

000	総記(図書館、図書、百科事典、一般論文集、逐次刊行物など)	7,782冊	3.2%
100	哲学(哲学、心理学、倫理学、宗教)	10,321冊	4.3%
200	歴史(歴史、伝記、地理)	3,159冊	1.3%
300	社会科学(政治、法律、経済、統計、社会、教育、風俗習慣、国防)	23,825冊	9.9%
400	自然科学(数学、理学、医学)	19,617冊	8.1%
500	技術(工学、工業、家政学)	3,046冊	1.3%
600	産業(農林水産業、商業、運輸、通信)	941冊	0.4%
700	芸術(美術、音楽、演劇、スポーツ、諸芸、娯楽)	3,081冊	1.3%
800	言語	6,967冊	2.9%
900	文学	7,071冊	2.9%
計		85,810冊	35.5%

製本図書

	学術雑誌製本図書	65,896冊	27.3%
合計		241,379冊	

(資料8)

北海道地区大学図書館協議会相互利用サービス 加盟大学一覧

1	旭川大学図書館
2	旭川医科大学図書館
3	千歳科学技術大学図書館
4	道都大学附属図書館
5	藤女子大学図書館(本館・花川館)
6	函館大学図書館
7	北海道大学附属図書館(本館・北図書館)
8	北海道大学附属図書館(本館・北図書館)
9	北海道教育大学附属図書館(札幌館・函館館・旭川館・釧路館・岩見沢館)
10	北海道医療大学総合図書館・あいの里分館
11	北海道情報大学図書館
12	北海道科学大学図書館
13	北海道薬科大学図書館・医薬情報センター
14	北海学園大学附属図書館
15	北海商科大学附属図書館
16	北星学園大学図書館
17	北翔大学図書館
18	北見工業大学図書館
19	公立はこだて未来大学情報ライブラリー
20	釧路公立大学附属図書館
21	室蘭工業大学附属図書館
22	名寄市立大学図書館
23	日本赤十字北海道看護大学図書館
24	帯広畜産大学附属図書館
25	小樽商科大学附属図書館
26	酪農学園大学附属図書館
27	札幌大学図書館
28	札幌学院大学図書館
29	札幌医科大学附属総合情報センター
30	札幌国際大学図書館
31	札幌市立大学附属図書館(芸術の森キャンパス・桑園キャンパス)
32	札幌大谷大学・札幌大谷短期大学図書館
33	天使大学図書館
34	苫小牧駒澤大学図書館学術情報センター
35	東海大学附属図書館 札幌図書館
36	東京農業大学 オホーツク学術情報センター
37	東京理科大学長万部図書館

(資料9)

実習施設一覧（総合実習）

No.	実習施設名	所在地	当該実習施設を使用する授業科目名	受入れ可能人数
1	札幌江仁会病院	北海道札幌市	総合実習	1
2	禎心会病院	北海道札幌市	総合実習	1
3	札幌宮の沢脳神経外科病院	北海道札幌市	総合実習	1
4	札幌山の上病院	北海道札幌市	総合実習	1
5	柏葉脳神経外科病院	北海道札幌市	総合実習	1
6	北樹会病院	北海道札幌市	総合実習	1
7	札幌秀友会病院	北海道札幌市	総合実習	1
8	北海道立子ども総合医療・療育センター	北海道札幌市	総合実習	1
9	札幌病院	北海道小樽市	総合実習	1
10	北海道療育園	北海道旭川市	総合実習	1
11	大西病院	北海道旭川市	総合実習	1
12	旭川リハビリテーション病院	北海道旭川市	総合実習	1
13	函館脳神経外科病院	北海道函館市	総合実習	1
14	はこだて療育・自立支援センター診療所	北海道函館市	総合実習	1
15	帯広西病院	北海道帯広市	総合実習	1
16	釧路北病院	北海道釧路市	総合実習	1
17	網走脳神経外科・リハビリテーション病院	北海道網走市	総合実習	1
18	滝川市こども発達支援センター	北海道滝川市	総合実習	1
19	介護老人保健施設 そよ風の里	北海道白老郡	総合実習	1
20	森岳温泉病院	秋田県	総合実習	1
21	柄内第二病院	岩手県	総合実習	1
22	日本海総合病院	山形県	総合実習	1
23	鹿教湯病院	長野県	総合実習	1
24	中伊豆リハビリテーションセンター	静岡県	総合実習	1
25	豊川さくら病院	愛知県	総合実習	1
26	北九州市立総合療育センター	福岡県	総合実習	1
27	中村記念病院	北海道札幌市	総合実習	1
28	慈啓会病院	北海道札幌市	総合実習	1
29	クラーク病院	北海道札幌市	総合実習	1
30	札幌白石記念病院	北海道札幌市	総合実習	1
31	札幌しらかぼ台病院	北海道札幌市	総合実習	1
32	愛全病院	北海道札幌市	総合実習	1
33	北祐会神経内科病院	北海道札幌市	総合実習	1
34	新さっぽろ脳神経外科病院	北海道札幌市	総合実習	1
35	函館新都市病院	北海道函館市	総合実習	1
36	高橋病院	北海道函館市	総合実習	1
37	島田脳神経外科	北海道小樽市	総合実習	1
38	一条通病院	北海道旭川市	総合実習	1
39	旭川三愛病院	北海道旭川市	総合実習	1
40	北見病院	北海道北見市	総合実習	1
41	恵み野病院	北海道恵庭市	総合実習	1
42	聖ヶ丘病院	北海道伊達市	総合実習	1
43	花川病院	北海道石狩市	総合実習	1
44	余市病院	北海道余市郡	総合実習	1
45	オホーツク海病院	北海道北見市	総合実習	1
46	中標津町児童デイサービスセンター	北海道標津郡	総合実習	1
47	総合リハビリ美保野病院	青森県	総合実習	1
48	青森労災病院	青森県	総合実習	1
49	宮古第一病院	岩手県	総合実習	1
50	由利本荘医師会病院	秋田県	総合実習	1
51	山形ロイヤル病院	山形県	総合実習	1
52	北村山公立病院	山形県	総合実習	1
53	わたり病院	福島県	総合実習	1

(資料9)

実習施設一覧（総合実習）

No.	実習施設名	所在地	当該実習施設を使用する授業科目名	受入れ可能人数
54	高萩それいゆ病院	茨城県	総合実習	1
55	市立岸和田市民病院	大阪府	総合実習	1
56	奈良春日病院	奈良県	総合実習	1
57	介護老人保健施設 西原敬愛園	沖縄県	総合実習	1
58	西仙台病院	宮城県	総合実習	1
59	博愛記念病院	徳島県	総合実習	1
60	昭和大学歯科病院	東京都	総合実習	1
61	札幌優翔館病院	北海道札幌市	総合実習	1
62	北海道医療大学病院	北海道札幌市	総合実習	1
63	札幌百合の会病院	北海道札幌市	総合実習	1
64	恵佑会札幌病院	北海道札幌市	総合実習	1
65	麻生病院	北海道札幌市	総合実習	1
66	岩見沢江仁会病院	北海道岩見沢市	総合実習	1
67	帯広厚生病院	北海道帯広市	総合実習	1
68	豊見城中央病院	沖縄県	総合実習	1
69	富良野病院	北海道富良野市	総合実習	1
70	さっぽろ神経内科クリニック	北海道札幌市	総合実習	1
71	介護老人保健施設 ジョイウエルズ桔梗	北海道函館市	総合実習	1
72	大手前病院	大阪府	総合実習	1
73	市立函館病院	北海道函館市	総合実習	1
74	津山中央病院	岡山県	総合実習	1
75	野田病院	千葉県	総合実習	1
76	八雲総合病院	北海道二海郡	総合実習	1
77	稚内禎心会病院	北海道稚内市	総合実習	1
78	香川県立中央病院	香川県	総合実習	1
79	輪厚三愛病院	北海道北広島市	総合実習	1
80	釧路孝仁会記念病院	北海道釧路市	総合実習	1
81	三才山病院	長野県	総合実習	1
82	光洋いきいきクリニック	北海道苫小牧市	総合実習	1
83	イムス札幌内科リハビリテーション病院	北海道札幌市	総合実習	1
84	早良病院	福岡県	総合実習	1
85	杏林大学医学部付属病院	東京都	総合実習	1
86	根本耳鼻咽喉科クリニック	北海道札幌市	総合実習	1
87	熊本機能病院	熊本県	総合実習	1
88	苫小牧耳鼻咽喉科クリニック	北海道苫小牧市	総合実習	1
89	岩見沢北翔会病院	北海道岩見沢市	総合実習	1
90	旭川赤十字病院	北海道旭川市	総合実習	1
91	亀田病院	北海道函館市	総合実習	1
92	手稲溪仁会病院	北海道札幌市	総合実習	1
93	札幌・すがた医院	北海道小樽市	総合実習	1
94	大雪病院	北海道旭川市	総合実習	1
95	北海道済生会西小樽病院	北海道小樽市	総合実習	1
96	市立札幌病院	北海道札幌市	総合実習	1
97	結城病院	茨城県	総合実習	1
98	函館稜北病院	北海道函館市	総合実習	1
99	洞爺温泉病院	北海道虻田郡	総合実習	1
100	町立中標津病院	北海道標津郡	総合実習	1
101	弘前病院	青森県	総合実習	1
102	むつ総合病院	青森県	総合実習	1
103	北海道大学病院	北海道札幌市	総合実習	1
104	中通りリハビリテーション病院	秋田県	総合実習	1
105	みさと協立病院	埼玉県	総合実習	1
106	伊予病院	愛知県	総合実習	1

(資料9)

実習施設一覧（総合実習）

No.	実習施設名	所在地	当該実習施設を使用する授業科目名	受入れ可能人数
107	竹田総合病院	福島県	総合実習	1
108	星が浦病院	北海道釧路市	総合実習	1
109	大湯リハビリ温泉病院	秋田県	総合実習	1
110	札幌しらかば台篠路病院	北海道札幌市	総合実習	1
111	小林病院	北海道北見市	総合実習	1
112	宮の森記念病院	北海道札幌市	総合実習	1
113	岩見沢脳神経外科	北海道岩見沢市	総合実習	1
114	旭川医療センター	北海道旭川市	総合実習	1
115	船橋市立リハビリテーション病院	千葉県	総合実習	1
116	富士病院	静岡県	総合実習	1
117	甲西リハビリ病院	滋賀県	総合実習	1
118	コスモ脳神経外科	北海道札幌市	総合実習	1
119	函館中央病院	北海道函館市	総合実習	1
120	勤医協中央病院	北海道札幌市	総合実習	1

実習施設一覧（基礎実習）

No.	実習施設名	所在地	当該実習施設を使用する授業科目名	受入れ可能人数
1	北海道医療大学病院	北海道札幌市	基礎実習	1

編入学後の履修モデル

履修モデル1:一般の4年制大学卒業生
履修モデル2:社会福祉系大学卒業生

Table with columns: 区分, 授業科目, 単位数, 開講年次・時間数 (1-4 years), 履修モデル1 (認定/履修), 履修モデル2 (認定/履修), 指定規則との関連 (履修モデル1/履修モデル2). Rows include 全学教育科目 (Introduction, General Education, Information Science, Natural Science, Medical, Foreign Language, Health) and 専門教育科目 (Language/Hearing Impairment, Basic, Specialized).